
風のグラスゴー

玲於奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風のグラスゴー

【Nコード】

N3881Y

【作者名】

玲於奈

【あらすじ】

英語のため 海外留学体験記

海外留学体験記

なぜ、私はここにいるのだろう。
気がつけば、ここにいた。

空がほんとうに高い。青空が広がっている。
ここまで空が青いとは。
息をのむような青さ。
宇宙に広がっているのか。

飛び降りる。
飛び降りるふりをする。
わからない。

そして、そんな自分に笑う。
なぜ、笑うのだろう。

しかしながら、崖沿いの葉がきれいだ。そして、私はここにいる。
何をしにきたのだろう。
全くわからない、切り立った崖、断崖の絶壁。
私は死のうとしているのだろうか。
わからない。なぜかわからない。

第二話 日本食で悶絶

死ぬ前に食べたああああい。

エビフライおにぎりー！ー！。

ご飯でえびフライが包まれていて

見た目は、Sコンビニの、チーズとか入ったやつ

でも、ご飯で勝負の一品。

地元は、みんなおやつはそれ。

知るかあ。(読者の叫び)

地元の名産。

こんな外国でだれもしらんべ。

日本食食べなくて、何ヶ月目だ。

おいしいんだぞう。

死ぬ前に食べ物とは、情けない。

それが欲求不満の原因なのか。

これで、死んでいいのか。

泣けてくる。つまらない人生。

こんなことのためにここまで来たのか。

そう思うと、あのだいつきらいな中学時代を

思い出した。

英語なんて、くそくらえの、時代。

なんで日本人なのに、英語を話さなければならぬのか。

なんでなのだろう。

彼が英語嫌いなのは(前書き)

なし

彼が英語嫌いなのは

英語がだいっきらいのは、
ひとえに中学校の担任の影響が
大きい。

中1の担任は、吉原ていちゃー、国語教師。

温厚な先生だった。

今、思えば、日本語は先生のために
あるようなものに思えた。

その後、大学までいったが、

あのような温厚な先生をみたことがない。

とつとつと、語っていた。

特に、昔のやつ。

なんだか忘れたが、徒然草だかなんだが、
とても冴えていた。

というか・・・

こちらが初めてだったので衝撃だった。

「佐藤君、おかしという古語の意味がわかりますか。」

おやつだと思った。

佐藤君の家は、開業医で、万事そつなく、クラスの人気者。

彼が、「趣があることです」

と言った時、何をこの人は、言っているのか。

と思った。

しかしながら、吉原先生が
優しくうなずきながら、正解です。
よく勉強していますね。

と言った時、本当に驚いた。

本当に本当におどりやった。

お泊まり会（前書き）

なし

お泊まり会

担任の吉原T、以後ティーチャアの略でTとする。

吉原Tは優しかった。

近隣の学校の、学校での宿泊を伴う
レクリエーションを禁止しましょう。というお達し。

F中、だめ。

A中、ばつ。

G中、だめだめ、だめ、接待ゆるさん。
もとい、絶対ゆるさん。

絶対に悪意を感じる。

中体連で知り合ったやつらからのメール。

親切だ。

情報をありがとう。

うちでながしたんだけどね。

先生の間でおったされたのだろうか???
言葉がわからないが・・

相当の包囲網。

まさに万事急須。

きゅうすは、これでいいのか。
教えてくれ。誰に言っているのだ。

ところが、

ところが、ところが、Y T

(吉原Tをさらに略す、本人Y K Kでよぶな。意味不明)

頑として無視。

全くもって、学級に任せてくれた。

そして、開催された。

なんだかわからないけど、学校で泊まるっ!!!

お泊まり会（後書き）

なし

学級委員の命令(前書き)

なし

学級委員の命令

学級委員長の命令!!

というか、期待やつ。

来たいやつだけ来ればいい。

ということ学級の内容。話し合いでもよくわからず。

開催!!!!!!!!!!

よくまあ、Y T (吉T許したな。)

というか、よく承認されたな。

というか、学校に無許可なんじゃないの???

と言つ話も後日、後日あり。

内心、心穏やかでない。

内申に響く。響くよね。

そのような方は、適時解散。

いちお様子はみにきたよ。

というか、

E美、「頑張つて!!」

(何を頑張るのか、うちらもわからない)

と言って、ジャンクフードの差し入れ、ありがたい。

100苑、なんとかでないと買いにいけないものばかり・・・

というか、こちらは午後7時に学校に集まり、何をするでもなく。

なんとなく、学校の周り。

扉にそってぶらぶらし。

多いと目立つ。との声で。

なんとなく燦々午後。(いいのか、漢字検定合格者教えてくれ)
たびたび思うが、誰に言ってる!!!!!!

学級委員の命令（後書き）

なし

警備の小池さん(前書き)

なし

警備の小池さん

警備の小池さんに迷惑かけるな。

誰かがざわついた。

小池さん。頭があがらない。こないだ、R損に、逃げだすところを

見逃してくれた。というか、授業中、

というか4時間目終わり。

というか、給食あるのになぜ……。某I数学教諭と
息のあわないもの多数。

意味不明。

さらに、さらに、小池さん、三者面談のばっくれ。

うちら怪しいから。わかるよねえ。

協同不審。わかるよ。

職員室からもなんか言っているとされる。

見逃してくれる。誰もがありがたいと思われること

二度や三度や、四度、五度……

仏の顔も三度まで。

坊主になった人もいると聞く。が、人生買われるのは素晴らしい。

そして、そして、そして。。。。

さらに、強力妨害キャラ。

まさに、ボスキャラ。

進路指導のPT、もとい、P教諭。

だっただじゃすまない。昼休み。終わることなく、放課後の

説諭。意味はわからないが、自称説諭。なんだろ。

自称はなに。ろんげなの。いやかつら、失礼アデランス。

これは古いか、とっさんのことでみんな言う。

(教えてください。誰に言ってる)

わからないが。みな恐れるとおり、説教ワールド。

さらに、時々、私立の娘さんの説教も入る。多分・・・予感。

なぜか、涙ぐむ。うちらに關係ない事いう。

特に、業者テストの点。おかしい。そんなにとれない。

警備の小池さん(後書き)

なし

keroro (前書き)

なし

keroroく0500

昨日の悪夢がよみがえる。

怒られの、冷の感情が入ってしまった。話をもどそう。

みんなが、なんとなく散策、部活の忘れ物、

生徒会、部活、単なる教室もどりを装い、

単純に忘れ物を装い、

塀に沿って、さりげなく学校に近づく

忘れ物などを理由に校内に入る。

小池さん、聞いてないふり。うまい。さすが。

というか、最初から学級レクと言え!!!担任。

そこが担任をせめられないところ・・・

そして、笑えるのが何をするのでもなく。

なんとなく、氣にいった教室に行く。

そして、そして、

氣にいった仲間朝まで過ごす。との指令。

これって学級レクなのか。

もちろん、担任は、成績処理とのできょうとーに許可をとり、職員室のセコム、操作。。。らしい。

くわしくは、トップシークレットとのこと。

おいおい。あんたは、トムハンクスか。M I 5か。

と・こ・ろ・で。K君。

なぜ。毛布がある！！！！！

というか、ろうそくはやめろ。

セコム来る。

というか、てんと教室にはるなあああ。

くれよんしんちゃんかあああ。

なんとなく言ってみました。

というか、その山岳ザックやめろ。

よく怪しまれなかったな、というか、山岳部か。

K男。みんなの荷物運び。やるなあ。

山岳部さまさま。

えらい。

みんなそれぞれだらだらモード。

きょーとーも、校長が帰ったので、すばやく6時帰り。

他の教員には、さすが、担任、それぞれに工作。

K朝なみ。

パチンコ好きのOT、まぎらわしい。

人文字か？O教諭だろ。

駅前、Mはんの大出血サービスのちらし。

さらに、K、F、ATには、コンパの誘い。よく看護学校とつきあいあったな。

それだったら、担任結婚しろ!!!。

悪いことはいわない、シャツ2度着はやめろ。召集・・・かけられるぞ。

なかなか暗号チック。

独身の居残り組。まだいた、

単純にいかない。フラワーアレンジメント、僕と一緒に行きませんか。

よくやるね。担任。愛を感じる。

ふつうひくよな。

行くか、帰るか。

.....

帰ったか。

担任の今後を祈る。

まあ、休みも近いし.....

しかしながら、

よかった。これで、学校占拠。

あとは、もとい、誘惑の聞かない機械。

ロボコック、

S 込むのみ、氣をつけるべし。

べし。べし。

kerrosos (後書)

なし

いと おかし(前書き)

なし

いと おかし

微妙な学級レク。

まあ正規じゃないからね。

でも、なんとなくみんな満足そう。

学級全員いるんじゃないの。

委員、点呼もしていない。自由です。

しかし、

なぜか、なぜか、正面玄関に集う者。多数。

なぜ。

なんとなく集まり、なんとなく、だべる。

探検するかとの話。

まあ、2、3人でまわっていろいろのこと。

でも、勝手に教室でござござやっている者もいる。

怪しい意味も可。

お化け屋敷の逆バージョン。

教室にいる方がびびる。

誰かが叫ぶ。

担任はどうした。

嘘とはいえ、フラワーアレンジメント
シヨックのようだ。

何か泡の出るジュースを飲んでいる。

そっとしておこう。

みんな同意。

さっそくなんとなく探検始まる。

時間は22時。

丑三つ時には、まだ早い。

こんだけいい担任だから、参りをするやつはいないだろう。

某数学教諭は危険。

廊下を歩くのが静か。

どろばうだ。

しのびあしだ。

バレミみたいな、当シューズ？やめーい。

ていつか習ってたのか。

K子の借りるな。

男がやるな。

図書室、カーペットびき。

開ける。寝てる。何時に寝るよねん。

陸上部のY。朝練疲れか。

丑三つ時に起きるなよ。

祈る。祈祷するな。

十字きるな。

次。

理科室。

さすがに、ここはこちらもこわい。

ここも電気消えている。

誰もいないのか。

がらっと開ける。

怪しい光。

やばい。

でたか。

何でやねん。

電気部か。おたくのつどいか。

鈴虫に、蛍光塗料塗るなよ。

こわい。物体鳴く鳴く。

それを観察するな。

しかしながら、電気部の新たな進化。

集団。協力。

というか、他の学級まで集うな。

ただちに箝口令。そして、撤収。

解散。

こうして理科室は無人となった。

担任も ろぼこっＴ上 楽だろ。

なんだか疲れてくるもの、途中でいなくなるものありけり。

どうでもよくなったのか。

23時で、某アイドル番組に流れるもの。

にんぐむ に流れるものもあり。

いと おかし。

ていうか、この表現あり？

ていうか、なんでみんな携帯テレビ持ってるの？

というか、携帯でテレビ見てるやつ。パケット料金大丈夫か？

なんとなく、それぞれの部屋に解散。

だべりんぐ開始でしょう。

ところで、

女子は、なんであんなにお菓子もってるわけ。

いと おかし(後書き)

なし

しじみじぞきり(前書き)

なし

うしじきどき

さて、時刻はてっぺんを迎えた。

べし、べし。

蛍光灯の電氣をつけると

怪しまれるとのことで、懐中電灯。

もしくは、キャンプ用のライト。

もちろんろうそく不可。電池用。

おいおいなんだ。

ここは三階だぞ。

あの怪しい光は、まっすぐこちらに

向かってくるぞ。よもや。

人だまか。

丑三つ時への前兆か。

ここらは、昔、墓地だった。うしじきって。

電氣部の吉田やめろよ。そんな古典的な。

もとい、陸軍の軍舎だったって。もっとぶるるぜ。

って、トイレの扉を半開きで、体、半身で話すな。

おまえはトイレの花子さんか。

なになに。人だまの原理は。

人間の骨にあるリンです。

おいおい電気部、科学的知識できたか。

まじ、だぜ近づいてくるぜ。

音もないぜ。

あああああ!!!

ああびつくりした。

おいおい山岳部のK男か。

ところで何してるんだ、あんた一人で

こんな長い廊下歩いて怖くないのか。

なんだよ。ザック化よ。

さらに巨大に見えるぜ。

さらに、ヘッドランプかよ。

マニアックなもの持ってるな。

高い位置にヘッドランあるから、

長い廊下歩いてくるとまあ怖いぜ。

なになに、山でガスった時の方がもっと

こわい。一歩まちがったら崖から転落。

まさに一寸先は闇。

おはなし〜しまししょうか〜。

おいおいこんなところで、お百度話か。

って話、途中なのに、どこ行くー！ー！。

べしべし。

ガスのりの時の訓練に持ってこい。

なんじゃそりゃあ。

うしじみじどきた(後書き)

なし

asamaまで

テレビ(前書き)

なし

asamaまで テレビ

って、ひきもどすな。

なになに。

ここまで来たら朝まで、生テレビ。もとい、

限界に挑戦。ギネスに挑戦。

誰が最後まで起きているか!!!!!!

おいおいなんじゃそりゃあ。

いえつつついつて、何で急に大勢

出てくるんだ。

さらに、なんじゃその録音器具は、

なになに、放送部のK田が、

「ビックリ日本新記録!!! ぱくり晩」で収録して

どこかで使いたいつて。

ぱくり晩。。。。

晩って何よ。

そして、どこで使うのよ。

えっ、ユーチューブ。

おいおい、ユーチューブって

テープとかの録音流せるのか??????

なんか適当に言っていないか。

まあ、いいいか。やれやれ。

いえーいーいって、あんたら、テレビの

おばちゃん笑い声かよ。収録かよ。

って曲流れるなよ。

っていうか、K田、なんでビックリ日本新記録の曲

持ってるのよ。

なになに、前に錦のあきらが出た、めっちゃいけの

やつから持ってきた。あんだ、よく撮ってるね。

えらいよ。

「みなさん、こんにちは、今日もやってまりました、

ビックリ日本新記録ぱくり晩のお時間です。」

って、あんたうまいね。

なんとかっていうアナウンサーによく似てるよ。

「本日も解説に東海林さんを迎えて、、、なんとらんたら」

ってワイドショーかい。しづいよ。

E のー

k ー ー。

ぼ m。 B -。 い ー ー。

なんだ、なんだ、なんだ、このフェッドアウトしたところからの

小さいミュージックのインは。

いえー ー ー ー。

ってなんだこの大歓声。深夜だぜ。

いの、ボンバーいえ。

いの ー ー、ぼんばー ー ー

って、体操部。踊るなよ。

おいおい誰だよ。リング作るなよ。

っていうか、リング上に後ろから光イン。

バックライトかよ。後光のようだけ、

誰だあの覆面は。

一瞬間。

つうか担任かよ。つうか、ちょっとした学園祭の余興か。

担任、首とか体すげー赤くないか。飲み過ぎだ。

覆面とるなよ。顔開けー。つうか大ジヨブか。

おいおい本当に戦うのか。

戦うのか>>>。

asamaまで テレビ(後書き)

なし

時を×少女(前書き)

なし

時を×少女

喧噪の後の静寂。

なんだか狭い空間だ。

白い小さい石がたくさん。

足の感触がこちよい。

そうか玉砂利か。なぜ。

周りにしきつめられている。

その中央には。

長方形の木の枠。まわりは、いい木だ。

く調子にのっているわけではない。

いいにおいがする。

その中に、どんよりとした物体。

もやっている。

そうか、湯船か。

浴場だ。

壁までそんなにない。窮屈な感じがする。

何人かの人がいる。けっこうにぎわっている。

ざわつきが聞こえる。

今、気がついたが。裸じゃないか。

脇に、脱衣かご。なんで、ここに。

あるんだ?????

なんだ。

なんだ。なんだ。なんだ。

誰かが、声をかけている。

思わず、玉砂利を浴槽に落としてしまっ。

「なにやってんじゃ。てめえ。」

一声に体がこわばる。

その拍子に、また白い石をいくつか

木の枠から滑り出し、浴槽に落としてしまっ。

静かに沈んでいく石……。

浴槽の中で小さな泡があがっている。

よく見ると、石から泡がでている。

「おんどりゃ、何、ぬかすか。」迫力がある。

本氣と書いてまじと読む。古い。

相当怒っている。ギャグじゃない。

強ばる顔、体を押さえて、相手の方を観る。

湯船の向こうに。相手が見える。

いったい。何者……。

あなたは誰……。

ここはどこ……。

わたしは一体誰……。

何を私はしているの……。

時を×少女の曲。

小さくイン。

小さくはいつて大きくなっていく。CM

なんじゃそりゃあ。

時を×少女（後書き）

なし

わんこそば(前書き)

なし

わんこそば

どうやら、強面のおっさん。

年齢60歳くらいか。やや不詳。

しぶいし、怖い。

浴槽に落とした石。

脱衣かご。

その事で

お怒りのようだ。

改めて、浴槽を見ると。

周りには、老若男女(さてなんて読むでしょう))

多数。

子ども連れもいる。

だが、みんなの眼は冷ややか。

怒られて当然の様。

暴力バーではないらしい。

あわてて、石を拾おうとするが、
体を流していないらしく、

さらに罵声を浴びる。

だがどうすることもできず、

腕を伸ばして石を拾う。

拾って脇の玉砂利に戻す。

全部は拾いきれない。

いいかげんあきらめて。

「ごめんなさああい。」と弱々しく叫んで

この場から逃げ去る。

かごを脇に抱え、

浴場の向こう側に行く。

よくよく見れば、浴場の向こう側には、

脱衣所が整然と並んでいる。

なぜ、私だけが。。。

また音楽がインしそう。

頭がいたい。

多くの人のざわめき。

誰かが何かを呼んでいる声がする。

ここはど。。。

張りのある何かがふる。

声がする。

若い声だ。

慌てて、かごの中野、ものを。。。

ざわつきが大きくなる。

私を呼んでいる。

なぜ呼ぶ。どンドン、呼ぶ声が近づく。

突然。

誰かが私の前に立つ。

なぜ。

本当になぜ。

若い女性。20代前半と思われる。

岩手のわんこそばの衣装????のような。

かすりの着物を着ている。

赤い帯がまぶしい。

「様、行きつけのお店 大将。」

大将のマスター様に選んでいただきました、

陛下もご賞味されたまんじゅうそばに

なります。」

なにを言っている。

なんで、私の名前を知っている。

行きつけの 大将。

なつかしい。断るが、

餃子のお店ではない。

少しうれしい。個人情報流出しているが。

脱衣場の向こうに、テーブルが広がる。

わんこそば(後書き)

なし

白い巨塔(前書き)

なし

白い巨塔

広がったテーブル郡、

意外に部屋は思ったよりせまい。

10畳くらいか。

いくつか、何か置いている。

自分の名前が殴り書きされている。

小さい四角柱の透明なストーンが

重しで置いてある。

その下には、

うちの形の紙が重ねてある。

なぜか。

必勝!!!!!!!!!!!!!!

なぜ。

何に勝つ。

なににだあああああ。

意味不明。

手にとってながめてみる。

シールのようだ。

結構使えるかも。。。

なににだあああああああ。

そして、その脇には、カード状のものが

重ねてある。

長方形の名刺サイズ。

赤の枠で囲ってある。

手の上に広げてみると。

赤の縁枠にまざって、

中に金色のゴールドのものもある。

さら、赤枠でも正方形のもの。

小さい長方形。

とうめいなラミネートのようなもの。

なんと、全部名刺。

「おまかせください。結婚は私たちに。」

婚活か。

ふと壁を見る。

Nが他県で婚活パーティ。

おいおい、ちらしだ。

万代橋そば。会場の地図がある。なぜここ関東でなくNがた。

絶対大丈夫。大丈夫なのか。

次。

大将に選んでもらった。

まんじゅうそばが食べられるらしい。

さっそく頼む。

その時。

向こうの廊下の奥から、

一列で歩いてくる一団。

どこかで、みたイメージ。

ゆっくりした、スローな感じ。

フラッシュバック。

後光がさしている。ぶろっけん現象か。

ドップラー現象か。

「「「白鳥先生の、総回診——」。」「」

白い教頭。

白髪か。

もとい。

白い巨頭。

でも一列。赤い服が多い。

もしや、名刺の。

あわてて名刺を見る。

婚活アドバイザー集団だ。

温泉で婚活。なぜ。

それに目をうばわれ、

点になる。

あいよ。威勢のよい声。

突然。目の前に、そばがきた。

ずずずと食べる。すする。

うまい。なんて言っていていいかわからない味。

なんとも言えない味。

が、うまい。

一息で食べる。

食べ終わって、カードをそのままに、

奥へぶらつく。と言いか引き寄せられた。

奥は、ちょっとした近代工場のような、

白い白衣に、帽子を、マスクをかぶった人たちが

つけものをしわけている。

こぶりの樽から出して、それを別な樽につけなおしたり、

小さな袋や、タツパに入れている。

なんとなくうるつく。

近代工場のようなのに、なぜかロビー。

客が近くていいのか。

ギャップがはげしい。

突然。パパーと呼ばれる。

誰のこと。

もしかして、

小さい3歳ぐらいの男の子が足にまとわりつく。

いつ結婚した。

というか、自分の子どもなのか。

あらたな結婚詐欺か。。。。

「なんだここに居たのか。」

しわがれた声。初老の男性が近づいてくる。

目は笑っている。

「探したぞ。おじさんも待ってる。」

わけもわからず、

一緒に、もと来た廊下を戻る。

子どもは手をつないでくる。小さな手だ。

戻り際、

誰かとすれ違う。

その時。

どしーん。

まさか。

なぜ。

背負い投げ。

後ろから投げ飛ばされる空中で、

時間が止まっている感覚。

スローモーションでながれていく。

床に、どしーんと、打たれる。

「まいったか。」

見れば、さきほどの浴場で私を激怒した

強面のおっさん。

ニヤリと笑っている。

このまま意識が無くなるのか。

目の前が白くなる。。。。。

白い巨塔(後書き)

なし

意識回復（前書き）

なし

意識回復

遠くで何かが鳴っている。

なんだ。

あの音は。

ずしーん。ずしーん。

よっ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

よっ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

ここはどこだ。

白いもやがかかった感じ。

天井の壁。

どこかで見かけた壁。

ゆっくり起きあがる。

何人も倒れている。

どうした。

何かにやられたか。

遠くに巨大な何か。

白い棒が4つ。

ひものようなものが取り囲んでいる。

リング。

そうか。プロレスの最中。

トランス状態に。

ここは学校か。

慌てて窓に駆け寄る。

校庭。

誰かが、声を出して

叫んでいる。

誰だ。

何が起こった。

目をこらす。

陸上部のY。

高飛び練習だ。

朝練やるなああああああ。

うるさい—————！。

そうか、あれは夢だったのか。

よかった。

悪夢だった。

意識回復（後書き）

なし

月光仮面（前書き）

なし

月光仮面

ほっとへたりこむ。

なんちゅうレクだ。

そのまま後ろにひっくり返った。

ざわめきを感じて起きる。

教室の時計が5時過ぎを指している。

もそもそと起きる。

なんとなく昇降口に向かう。

まだまだ テレビ。

起きていたような人々が集っている。

毛布を肩までかけてだべりこんでいる。

いろいろな場所から集ってきているようだ。

番組は続いているのか。

外で担任がたばこを吸っている。

背中が寂しい。

校門の方から誰か来る。

すごい早さだ。

何事。

どこかで見たかっこう。

教頭だ。

担任へつかかみかかりそうな

勢い。

らりあつとをくらわせそうだ。

すさまじい勢いでまくし立てている。

外ゴミ箱を頭上に持ち上げ、

だれかがせまる。

思いつきり投げる。

きれいな放物線を

描いて、

ゴミ箱。

がっしやooooooooん。

教頭。

固まる。

投げたやつを追いかけている。

10代は早い。

つかまらない。

いちもくさん。

消えた。

すばらしい月光仮面か。

どーこの誰だか

知ーらなーいけれど。。。。

昭和。

月光仮面（後書き）

なし

白い大きな入道雲（前書き）

なし

白い大きな入道雲

翌日

晴天がまぶしい。すかつとした青空。

そして、その日も暑かった。

軽く35度は超えた。

レクに参加した全員。

校長もとい教頭に

反省文を書かせられた。

きつちり4枚。なぜ4枚かは謎。

ごめんなさい。ごめんなさい。と

果てしなく書く、猛者もいた。

「購買のパン、2個で請け負う」

との同学年他学級の甘い誘惑に

心ひかれたが。

（おいおい、代筆業者か。

こんなことで小銭をかせくな。）

内申がどうたら言う輩はいなかった。

それぞれ、みんな学級学園祭だった。

と満足だったのだろう。

（他学級もマネしたが・・・）

ところで、

吉原T。YTは。

もちろん逃れられず。

4月のあの温厚さも

つゆときえ。

7月までの短い間だったが・・・

学校の関係者の多くを裏切り。

そんな先生じゃなかった。

うちらが変えたとの話も

上級生や、一部学校関係者から

ちらほらと。

ももとの性格を隠していたとの話も

ありけり。

幸いPTAは騒ぎ出さず、

一部 S徒指Dぶ朝は、

そうとうのお冠だったが、

特に他学級への波及を警戒。

しかしながら、

Mはんや、看護学校の先生方が

すばやくフォローをいれ、

(なかなかよかったらしい。いろいろと)

重い処分や、飛ばされることもなく。

引き続き、うちの担任。

YTとなったのである。

めでたし。めでたし。

おいそれでいいのか。

夏休み明け、空はどこまでも青く。

白い大きな入道雲が山からわき上がり、
そしてきつちり35度超えの夏でした。

9月のことであった。

白い大きな入道雲（後書き）

なし

クレアラシル(前書き)

なし

クレアラシル

話を戻そう。

そのような不思議な国語担任。

Y.T。 吉原T。

私は、国語に強くひかれたのだ。

キャラクターによるところも

大きかった。

今、考えると思う。

そして、ついに登場。

主演キャラ。

英語T。

クレアラシル。

解説しよう。

彼女は、英語のイントネーションを

私らに教えるべく、

口を大きく開け、

開けすぎて口の脇が

やや切れる。

そこで登場白い薬。

なぜか、みんながクレアラシルと呼ぶ。

今振り返ると。

口ロミはこわい。

何かET（英語T略）が

「私は、皆さんのために、

皆さんのイントネーション向上のために

口が切れるのよ。 × という薬を塗っているの。」

と授業中。熱演もとい

説得???したが

誰も薬名を覚えぬ。

以後、引き続き

クレアラシル。

謎が謎を呼ぶ。

クレアラシル(後書き)

なし

これでいいのか日本人（前書き）

なし

これでいいのか日本人

私は確信する。

小学校から中学校にあがって、

なんとかとかの教科で

少し英語をしたような気もするが。

やはり、はじめのイントネーションが

すべてを決定したのだと思う。

学力は著しく低下した。

そして

2年で恐るべきことが起きた。

外国の先生が授業をすることになった。

いいのに、国際化に備えなくても。

学費もあがるからやめとこつよ。

うちの心のつぶやきは関係なく。

そして始まった授業。

冒頭いきなり。

い・き・な・り。

ゲームをするという。

早口でルールを説明する。

わからない。

英語でなんとかといって、

ゲームはスタート。

なんとなく。

相棒（某ドラマではない）の

ところへ、

徐々に集まる。

「なんだべ。」

いきなり捕まれた。

廊下に直行。

後で知ったが日本語禁止とのこと。

英語授業は日本語禁止と後で知った。

なぜ、説明を始めにしない。

したのだろう。多分英語で・・・

「なんだべ。」

で私の英語人生は終わった。

これでいいのか日本人。

なんだかどっかの番組名だ。

これでいいのか日本人（後書き）

なし

暗黒時代(前書き)

なし

暗黒時代

こうして暗い英語時代を過ごした。

まさに暗黒時代。

思えば、ローマ字もかなり怪しかった。

登下校で街に行く。

車の後ろの、社名。

車の名がわからなかった。

TOYO まる

ティオとか読んでいた。

スペイン人が。

ギリシアの人が。

相当やばかったらしい。

(友人談話)

ひいいていたらしい。

密かに。

本人には言えなかったそうだ。

もちろんそうであるから、

学力も低空飛行。

40点が危ないと

言われていたが、

よく40点だいをキープできた。

ときどき、砲弾にあたり

30点圏内に落下しそうに

なるが、

友人の「これ、ETのまちがいだぜ。」

で助かる。

本当に危なかった。

助かった。

あのと、私は神を信じた。

追うまいじつど。

暗黒時代（後書き）

なし

スーザンボイル(前書き)

なし

スーザンボイル

本当に。

本当に、本当に。

しつこいが本当に。

つらい戦いだっただが。

(特に英語。そこを強調)

何とか私は生き残り、

次へのスタートにつくことができた。

(内容は、高校ラブソティ 純情編

本編終了後着手予定。「期日未定」

もし、後日お見かけの時は読んでおくんない。(

さらに、私は幸運の青い鳥。

もとい、黄色いはんかち。

もとい、白い北野天満宮のお守りのおかげで

本当に最後は神頼みしか残されていなかった。

父も、母も、お参りに行ってくれたらしい。

本当に、

本当に、本当に、

これで自分の人生。運を使い果たしたと

思った。

後で、

それがまちがいで

なかったことが証明されるのだが。。。。

それは、また別の話……

さて、3月。

職員室でも話題の、奇跡の人。

時の人。

D高校のスーザンボイル。

祝 卒業。

こうして

私は

九死に一生を得て、

ばかだ大学に合格することとなったのである。

桜がその年はやけにきれいな、春3月であった。

スーザンボイル(後書き)

なし

海辺の街(前書き)

なし

海辺の街

きりよく0時を回って
新しい章に突入できそうだ。

大学は、海辺の街だった。

それでも

圏のはずれだ。

なんでもその大学は、

はじめは都会から離れ、

心をきれいにし、

野に抱かれ、自然を愛し、

そして、あるところで

都心にうつるらしい。

何を心配しているのだろう。

しかしながら、私は金銭面で

助かったと思う。

そして、自分のあか抜けなさからも
よかったと思う。

とにもかくにも海ははじめてだった。

穏やかな海。

たおやかな海。

誰かと行くのだろうか。

そんな事を流れゆく

電車の窓から考えた。

そして、

まったく。

海を見て、

山さくらしていたけろ。

とつてもめずらさかっただけ。

言いそうになった。

本当に田舎者であった。

部屋の真ん中に座る。

空虚な時間が流れる。

何も無い。

夕方の赤い日がかかる。

暗くなる前に

出かけた。

角をまがったすぐに

全国チェーンのCMでおなじみの

コンビニがあった。

近い。

迷わず入る。

学生街か。

集っている。

そして、

夜

一人で

がらんとした部屋で

350のビールを飲んだ。

コンビニで未成年ですか。

と聞かれたらまずいと

思ったが、

そこら中で

学生が飲んでるのか。

何も聞かれなかった。

はじめての飲酒。

一口飲む。

心底。

苦かった。

今の自分を指しているのか。

学校で

あれだけ、

皆が

騒いでいた。

泡の出るジュース。

まずかった。

気がしれなかった。

泣けてきた。

(テレビは欲しいと。。。)

海辺の街（後書き）

なし

ダチヨウ倶楽部(前書き)

なし

ダチヨウ倶楽部

そして

自分でわからなかったが

なんだか落ち着かない

華やかな雰囲気だからか

なぜだ

女子が多いからか

全体の4分の1しか男子がない

聞いていない

(ダチヨウ倶楽部か)

(いやかえってダチヨウ倶楽部くらいの
明るさならよいが・・・)

気が重い

ばんがらな自分には合わない

思った。

男子高出身者には
つらい

まさに

慣れていないからだと思
う

チャラチャラ系男子も
多い

そのようなところが
ところどころ

ぱあっと盛り上がっている

それで全てかと思うが

沈んだところも

つらい

テンションのやたらと

高いじょしーには

目のやり場に困るし

愛想笑いも疲れる

そして

一歩間違つと

怪しい人

左右に座るのも
もちろん
じょっしー

氣疲れ

椅子の左右の肘当て？
も考えもの

どーんと座りたい。

式が始まって

何人目か、

何人が忘れたくらいの来賓の挨拶時。

突然。

春休み

暇でみたCSの

健さんを思い出した。

男はだまって。。。。

自分にもあの生き方が出来るのだろうか。

世界が違いすぎる

ダチヨウ倶楽部(後書き)

なし

21話の後に読んでください おハイソ(前書き)

なし

21話の後に読んでください おハイソ

インターネット接続トラブルによる

21話の後のこちらが22話です。

22話は、23話になります。

訂正いたします。

重ねてすみません。

上京してしばらく、

入学式があった。

ややハイソな感じのする

自分に似つかない

テレビ的な

学校だと思った。

おしゃれた。

ただ、沿道の桜はきれいだった。

校舎か。

本当に綺麗だった。

満開が過ぎ、

散りゆく景色が

心を揺さぶった。

予備校に通うA。

家業を継いだS。

敗者の弁か。

自分は

よくまあ、上京できたものだ、

金銭面を含めて、おふくろに感謝した。

そして、

驚くべきことに、

当時、別なおふくろさんも世間を

にぎわせていた。

ぼうを持った人の家が、

自分の家におもかげが似ていた。

落ち着かない学食のテレビで、

見た。

視線に困ってテレビなのか。

そんなことを覚えている。

式には、

母は、上京はしなかった。

同じく無骨な父も。

同じだった。

式では父兄の姿が目立った。

ブランドがわからない私にも

一見で高いとわかった。

自分は、量販店で買った。

恥じてはいない。

ネクタイも

結べず、

小一時間苦戦した。

21話の後に読んでください おハイソ(後書き)

なし

トンネルを抜けると・・・(前書き)

なし

トンネルを抜けると・・・

トンネルを抜けると

雪国だった。

遠いどこかで

誰かが言っていた。

その静寂とは別に

とても

ざわついている。

いや

浮かれた雰囲気だ。

N県の県境まで行くらしい。

山

また

山の感じがする。

さすがに高速なので、

風情は遠い。

すうっと流れる感じがする。

バスは何台も連なっているそうだ。

私は、

やや寝坊し、

本当は

行かなくてもいいか

と考えた。

しかし

学生課の職員に

行かない者は

「お尋ねものになる」

「私の言うことを聞きなさい」

30代後半 女性職員

みつこ
に言われ

やや高圧的

いやかなり高圧的

というか脅迫か・・・

最後まで抵抗したが

名簿に

一つだけ

見事にぽっかり

空いている空欄に

をつけさせられた。

トンネルを抜けると・・・(後書き)

なし

君の名は。。。(前書き)

なし

君の名は。。。

大学を続けるか。

それとも。

それが踏み絵らしい。

担当教官への

学生のお披露目もあるので

絶対の参加

服従？

だそうだ

大学は自由な思想？

ではなかったのか。

そして

来ない者は

左遷！！！！

村八分の

憂き目にあつらしい。

そういった流れ者に

憧れる自分が

こわい。

しかしながら

昨今の少子化

大学としても

いきなり

退学者を出すわけには

いかないと考えているらしい

・・・

それが踏み絵と説得か。

果てしなくだるさを感じる

話をだいぶ前に戻す

実は

入学式でシラバスという

電話帳かと

見違う冊子を渡された

この帳面から

自分の

選択する単位教科を

選ぶらしい

調子のいいヤツは

そこから単位が簡単に取れるものを

入部しようとしている

いや

するのか

サークルの先輩から

聞き出すらしい

もちろん

私は

まだ開いていない

おそかれ
はやかれ

また

みつこに呼び出される
であろう。

（もちろん

みつこは私が

勝手に付けた名前なので

本人の名を知らない。

君の名は。。。

どこかで聞いたフレーズだ。）

君の名は。。。(後書き)

なし

偽善者（前書き）

なし

偽善者

そんな私であるので

自分がどこに所属しているかわからない

発車ぎりぎりの

バスで

多分

私がこないだろうでいらつく

学生課職員 よしおに

学籍番号を言い

最後のバスであるこのバスに
よしおと共に乗り込んだ

いや押し込まれた。

本当に流れ者はいなかったのか

あと少しで流れ者に

なれたかと思うと

また

健さんを思い出し
少し

涙ぐんだ

去る者は追わず。

後日談だが

去る者が若干名いたそうだ。

永遠にたどりつかない

尊敬。

さてそんな

私の氣持ちにはおかまいなく

バスはどんどん進んでいく

はじめの頃こそ

携帯片手にぺこぺこ

頭をさげ

さも私は悪くないを

演じていたよしおも

快調にすすみ

先発隊に

近づくことを

確認できると

不機嫌さがなくなったようだ

しかしながら

それに反比例しながら

私の心は沈んでいく

何年も前からの親友

みたいな顔で

座席でしゃべる

周りの人々

なぜか

最後尾が空いていて

本当によかった

みんなの無言の

追い立てか。

一人だ

すがすがしさもあり

少しの寂しさも
あるが

氣疲れするよりは
ましか

どこでもいる

おせっかいな
ヤツが菓子
をまわしながら

情報収集にこないうちに

眠ってやるうと

眼をとじた

幸い自分のアピールに

精一杯の人々だらけで

一握りの

偽善者もなく

平和に

私は

深い眠りにつくことができた。

偽善者（後書き）

なし

友だちごっこ(前書き)

なし

友だちごっこ

起きるとバスは止まっていた。

誰もいない

はっとするが

どうやら休憩のようだ

よしおのいびきが

最後尾まで聞こえてくる

みんな青空の下

湖畔で戯れている

遠くに名のある

山が見える

歓声をあげ

しきりにデジカメで

写真を撮る集団

お互いに撮り合い

仲間意識を

作っている

偽りの時間

友だちごっこの
はじまり

ふと見ると

それらの輪にそまらず

ベンチで座って

はぐれているものをいる

何かのポーズか

誰も声をかけなくても

動じない

すがすがしさを感じる

一人を楽しんでいるのが
伝わる

すごい

感心した

誰も気づかない

心の強い
芯がある

窓からしばし眺める

もしかしたら

観察していたのかも

しれない

身長は高め175cmくらいか

もしかしたら180はあるか

すらりとした姿勢

優雅な横顔

知的な漂い

目鼻立ちはつきり

日本人でないような

感じもする

ハーフか

オーラがでるのではなく

自然な感じが素敵だ。

つかのま

ぼんやりしていると

時間なのか

三々五々

皆がバスに乗り込んでくる

何事もなく出発
私には何かあった。

友だちごっこ(後書き)

なし

合宿所（前書き）

なし

合宿所

研修所に到着した。

随分と時間がかかった

4時間弱か

夕焼けがまぶしい

そして

まだはやいが新緑の息吹を感じる

確実に空気はおいしそうだ

真新しいうすいクリーム色の外壁

幾何学的な形の小窓

合宿所は

ちよつとしたしゃれたホテルの

ようだ

大学の持ち物らしい

先発のバス数台は

もう到着し

どんどん学生が入り口にすいこまれていく
砂糖に集まる蟻か

べつに私に砂糖はいらない

正面玄関で学籍番号を探す

学生課若手職員が教えてくれた

男子の数は少ないので2人部屋の個室だそうだ

一人を祈るがこれだけの人数 そうもいくまい

丘の地形をそのまま使っているからか

曲がりくねった廊下をすすむ

いくつかの棟の

つきあたりが私の部屋だった

せまいことを覚悟したが

外見だけで中は意外に広かった

簡素な机が2つ

合宿は意外に

3泊4日も

あるのだ

学習会もある

相当、懇親を深めたいらしい

孤独からの自殺者を減らす目的か

考えすぎか

大きな窓

ベッドは2段になっている
本当に簡素な作りだ

相方は来ていない

このままこないことを
祈る

合宿所（後書き）

なし

やまぐら(前書)

なし

どんぐり

そこへ

突然扉が開いた

物静かな

ややどんぐりなどどんぐりが
いや

男が入ってきた

名乗りはしない・・・無言

まあ これくらい

静かな方がありがたい

きらりと笑いながら

よろしくとか

握手とかされたら

たまらない

こちらから名乗る

普通の対応、

なぜ普通を装うのか。

悪い自分。

はじめからべたべたするわけではないが
二人で夕食会場に向かう

大きな食堂だ
まあ学食か

バイキング形式
すごい人だ

あの中に入るのはつらい

窓辺の席で待つことを
どنگりに告げる

どنگりは腹が減ってたまらないのか
さっさと躊躇せず進む

人を見るだけで疲れる

まわりを観察する
手詰まりで煙草が吸いたいところだが
もちろん灰皿はない

窓の外の暗闇をみる

真の闇
暗い

背の低い
薄暗い街灯に照らされて植え込みが見える
よく手入れされている

作られている世界
群がる人々

はずれるのは簡単そうだが

どんぐりを探そうとしたが
もちろん見あたらない

それにしてもあの人だけに
突進していく

どんぐりの勇氣
尊敬に値する

どんぐり(後書き)

なし

山盛りポテト(前書き)

なし

山盛りポテト

ぼんやり探していると

テーブルをつくくらい向こうに

あの湖畔の女性がいた

一人かと思いきや

ちゃきちゃきした小柄な

少女？？が立ち回っている

かいがいいい

こちらには気付いていない

それがいい

それがいい

どんぐりが戻ってきた

おぼんにたくさんの

おかずを載せている

ちゃんと私の事を忘れずに

こちらに来る

律儀だ

なんだか食べるのがどうでも

よくなった

近づいてきて

どんぐり

いきなり山盛りポテトを

私に寄越す。

ケチャップのスティックもつけ。

取るのが好きだとかなんとか言って

これも食えと言って

ケンタッキーのような若鶏もも肉も
ずらしてくる

悪い奴ではなさそうだ

すごい勢いで食べて

また戻っていく

食事と真剣に向き合っている

私は一つか二つポテトに手をつけ

なんだかお腹がいっぱいになった

気持ちよく食べるのを見ると

こちらまで十分な感じだ

今度はサラダとデザートを

持ってきた

コーヒーだけ遠慮無く

いただく

山盛りポテト(後書き)

なし

ミーティング(前書き)

なし

ミーティング

人の出入りがあわただしい

うちらから4、5テーブル向こうの

中央の通路を

黄色い歓声を

あげて通っていく

グループの多いこと。

この後

ミーティングという名の

顔合わせが

体育館であるらしい

文学部全体で

顔合わせとは

何人になるのだろうか

100は軽くいるだろう

どんぐりが言うには

全学部は無理なので

いくつかの学部ごとに

時期をずらして合宿するらしい

文学部、教育学部がうちのチームらしい

はじめて知った
というか、学生課みつこ
言葉よ

あんなにバスに乗って
2学部とは

何が少子化だ。

ばか田大学のブランド恐るべし

どんぐりは続けて

工学部、経済学部なんたらかんとらと
学部を教えてくれたが
なんちゅう数の学部だ

啞然

学部にわけのわからん名前をつけないでほしい
純粹に研究したい
おまえが言うか

というかそういう私も何を基準にこの大学を
選んだのか今さらながら意味不明

高校スーザンボイル事件

へたな鉄砲も数うちや当たるか

人生そんなに甘くないと
進路指導Tはしみじみ言っていたが

それこそ

沖縄でめんそーれか

北海道の北のはじか

そこまで考えれば

なんとか口もあつたらしいが

それとてさつこんの

夢見がちな学生によってどんどん

浸食されはじめているらしい

よくまあここまで

こられたな

それより体育館でどうするのか

学部対抗バスケット大会（笑）するのか

（きつぱり）あり得ない。

ミーティング(後書き)

なし

禁煙（前書き）

なし

禁煙

よくまあ、あれだけ食べれるな。
というほど食べ、

私が遠慮したポテトもたいらげ

「テレビで野球を観たい。」

どんぐりはそう言ってどこかに消えた

私も煙草が吸いたくなり

歩もうとして

果たして吸えるかと考え

この人混みでさがすのも

おっくうになった

バスではなんとなく

沈んだ心で健さんだったので

我慢できたが

いよいよ禁煙が高3の追い込み以来か

なにはともあれ、体育館の裏手でも

行ってみるか、どうせ集合場所だし

という軽い気持ちで

出かけた。

(!!!この思わぬ氣まぐれが

彼の人生を大きく惑わすとは・・・)

続く・・・

というか、いつも続いているやろ。。。

(そんなこんなで大型時代劇 もとい 青春群像活劇

風のグラスゴー・・・

まだまだ海外にはたどりつきまへんで)

禁煙（後書き）

なし

体育館裏手（前書き）

なし

体育館裏手

「よっしー。。。。」

何を言っているのかと

思った

なぜ、わしの名を呼ぶ。

ていうか人違いだけど。

もちろん。

そして、なんで人けのない

こんな体育館裏手で

誰かを呼ぶ。

逢い引きか（ふるっ）

ここらの周りは、背の低い街路灯はあるが

いかんせん灯りは暗い、かなり暗いと思う。

はじめは

勘違いしているのだと思った。

こちらは、煙草を吸おうと思ったたら

まさかのオイル切れ

なんでやねん。自分で自分にどつく

というか、呼んでるのだれえってかんじ

まさに、任侠映画の「おんどりゃ。どたま 勝ちわるぞ。」
的状况。

よくわからない。

まだしつこく呼んでいる。

「よっしー。。。。。」

携帯で呼び出せよ。

あるいは呼び出されたか。

さすがにこの間におそれをなしたか、

呼んだ方がいいがこちらにはこない。

ざまあみる。

誰に言っているかもわからないが。。。。

そんなふとした油断をけちらし

悪魔はやってきた。

ちゃき。

はっちゃき。

そう、はっちゃき。

さっきの食堂の。

ガシーーーーン。

軽い脳しんとつを起こしそうになりながら
いや起こしたのか。
倒れそうになる。

あの

小柄な少女。

いや、少女とは言えない。

うちらと同じ年代。

なんであなたがここにいるの。という感じ。

そして、なんでリアットなの。

「よっしーーーー。。。。」って誰って感じ。

消えゆく意識でそう思った。

そして、
眼の片隅にあの湖畔の女性がいた。

体育館裏手（後書き）

なし

幸せの黄色いハンカチ（前書き）

なし

幸せの黄色いハンカチ

氣が付くと

体育館の雨を打つ砂利

犬走りに寝ていた

どのくらい

寝ていたのだろう

遠くからざわめきが

それが

すぐ脇の体育館の外扉の中だと
わかるまで
数分

いやもつと短かったのか

ざわめきが大きく聞こえる

外扉を開ける

まぶしい

始まるどころだったらしい

扉を閉めてそこに佇む

とつか氣を取り戻す

なんちゆう人の多さやねん

演台で挨拶が始まったらしい

急速に馬鹿らしくなってきた

そして体育館裏手にちゆうこーでもあるまいし
行った自分が情けなくなってきた

自分に嫌氣がさし

部屋に戻るべく入り口に向かう。
くだらない話はまだ続いている。

そして、そこに例によって学生課よしおが待ちかまえている
そついやこいつもよっしーか。

「ちよつと頭がいたくて」

よしおに言う。

確かに倒れただけあって顔が青かったのだろう
何も言われず
行ってよしの片手ぶり。

こいつは氣概なしと思われたか。

まあいつものことだ

部屋に戻る

後ろから、なにかアトラクションか
ゲームが始まったのか

大きな歓声がある。

やっぱり学部対抗バスケット大会
当たりか。

俺がいなくて、文学部は損したな。

幸せの黄色ハンカチの武田鉄矢のように

捨てぜりふを吐く。

なぜか笑いがこみ上げてくる。

幸せの黄色いハンカチ（後書き）

なし

松田勇作

今までにない
人混み

そしてバスでの疲れもあって

横になったとたん
眠ってしまったらしい

ふと気がつくと
時計は午前2時・・・

ここはどこ。一瞬。
どこにいるのかわからなかったが

そうか合宿に来ていたことを
思い出した

毛布がかかっていた

どんぐりがかけてくれたらしい

氣遣いの男か

ジャージに着替えてベッドに入る
ドングリは仏様のように
安らかに眠っている

デブはいびき、偏見は崩れた。

・・・

少し眠れず

今日の出来事を反復する

なぜリアットなのか

そこが一番だ。

いろいろ考えるが答えが見つからない

このまま眠れないか

羊でも数えるか

と思っていたら

寝てしまったらしい。

カーテン越しの

やわらかい日差しで目覚める

嘘ではない純な鳥の音が、まぶしい

もう片側の壁側のベットの

どんぐりがいない

カーテンを開ける。

新緑になりかけた木々の新芽がまぶしい

窓からは見渡す限り森しか見えない

森の間を建物が見え

それらをつなぐ廊下が延びている

森にあつて調和がとれている
なんと広い合宿所だ

昨日はわからなかったが
大きな山が正面に見える
ここはその中腹だったのか

静かに椅子に座り
朝のすがすがしさを味わう
海辺のカフカで

あの街も
すがすがしさもあるが
やはり広大な森林にはかなわない

コーヒーがあればいいな

白いスマートな帽子が
入ってきた
誰かと思ったらどんぐりだった
なんとも洒落た格好をしている
良家の子息か

格好を褒めると笑いながら
量販店のジャージだとのたまう
時代は変わったか

そっぴいっぴいも体育は
小豆色の高ジャージ
寝間着のジャージも
お袋が買ってくれたまあ普通のやつ

自分に合っているかはわからないが
悪くもない

何処に行ってたか尋ねると
ジョギングしていたらしい
見ればジャージが汗ばんでいる
動けるデブか

どのくらい走ったのか聞くと
3、40分くらいだそうだ
普通という

ハーフマラソンに前から挑戦しているらしい
なんじゃそりゃあ

松田勇作 台詞が違う

恐るべし

爽やかとしか言えない健康的デブ
繰り返すがデブの範疇を超えている
超人デブか

松田勇作（後書き）

なし

青い缶（前書き）

なし

青い缶

手に何か持っている
青い缶

コーヒーだ

無言で私に投げってくる

さすがどんぐり

気遣いの男

温かいのがよかったが

贅沢は言えまい

飲みながらここらの自然の素晴らしさを聞く

嫌みに言わないのが氣にいった

自分も走ったような錯覚

やってみようかとも思った

タバコ吸いにはまあ無理だろうが

昨日の様子をどんぐりに聞く

体育館にパイプ椅子が並べられて

合宿のオリエンテーションだったらしい

そうとうリアットが効いていたらしい

パイプ椅子など気づかなかった

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ

あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ

青い缶（後書き）

なし

洋なし（前書き）

なし

洋なし

昨日の様子をどんぐりに聞く

体育館前方

ステージ前に整然と

パイプ椅子が並べられ

いやはや

そうとうリアットが効いていたらしい
パイプ椅子など気づかなかった

世に恐ろしや

部屋割りどおりに

パイプ椅子の背に

番号が振ってあつたらしい

うちらは囚人か

そこまで管理するか

あざとい。

さらに言うなら

部屋割りは学籍順らしく

私の学籍は042474

これもおもしろくて

思い返せば

カードをもらった時

一瞬

世に用無し（洋なしでもよかったが）と読め

史学、年表覚え過ぎ、

そんな読み方をする自分の

あまりのばからしさに笑ったが

どんぐりは、042502

その差、28名

男子は極端に少ないので

ご縁というわけか。

そりゃあそうだわ、男子と女子を一緒の部屋にするわけにゃあいかないし（笑）

そうして

そうやって誰がいないか監視しているのだとかばからし。

でもそんな逃げだす度胸のある奴なんていないんだね

なにしろ座席は、みんなうまって。

どんぐりの隣だけポツンと空いていた。

そうだ

かえってどんぐりが恐縮したらしい。

大笑い。なんてったって。

私は、よっしーに許可もらったかな。

意外に役立つな、よっしー。

さてさて内容は、合宿のオリエンテーションだったらしい

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ。
それにしても

あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ。

人の集めすぎ

しかしそうでもない

経営が成り立たないのだろう

洋なし（後書き）

なし

お代官様(前書き)

なし

お代官様

内容は前に入学オリエンテーションで説明された話をなぞる話が多かったそうだ

入学オリエンテーション

初耳だ

参加していないもの

若干一名

どنگりやや驚くが

そこだとばかりに

メモを見ながら丁寧に教えてくれる

学生課の説明はまどろっこしそうだから

いかなくて正解か

1年次は教養講座。

2年次でゼミに入部すること

教養の単位はざっと以下のようなものがあること。

倫理学、法律学、法律概論、経済学、地理学、史学、哲学、
言語学、化学、環境、情報、情報科学、自然学、書道、
芸術、美術史概論、自然科学、数学、英語、ドイツ語、
フランス語、スペイン語、中国語、そして体育。

っていつか体育まであるのか。

さらにまだまだあるらしいが一般的なものを

教えてくれた

そして、外国語は、複数選択なので要注意とのこと。

2年次からは、ゼミや専門教科が始まるので

1年で習得するのが望ましいこと。

合宿最後の日までに、マークシート式のシラバスを提出すること

そうやって緑色のセンター試験の時に目にかかったような

紙をひらひらさせる

なんと2枚もらってきてくれている

さすがに健さんも授業にいけないと

放浪の寅さんになってしまう

どنگりとも

何かの縁。

腹を決めて

どنگりに教えを請おう

しかしながら

なんのことはない、

要は、シラバスの回収と仲間作りか

大学もよく考えたものだ

そんな奴らの思うつぼも癪だが

まあ、説明会に行かなくてもシラバスを出す

ことでチャラとするか

何をやっても平均点以上
どんぐりは説明もうまい

学生課でもやっていけそうだ
よっしー！。の小狡い顔が浮かぶ

どんぐりに聞いてみる

もし教養がうまくいかなかったら
留年になるのか

それはない。

どんぐりは即決

そりゃあよかった

2年次、自分の希望学科に不利になるのか
という質問は、

したりという顔をして
いい質問です。

と言わんばかりに

そこは質問が集中し
皆の関心があったそうだ

ただ、学生課は一言。

自分の希望学科に不利になるかは、
ないことはない。

追って沙汰する

代官様か

あくまでもお上だ

理路整然系学生が、説明を
求めるが

質問は打ち切られ

そこでオリエンテーションは終了
したそうだ

秘密かい。

お代官様(後書き)

なし

赤いミミリーのごっこ (前書き)

なし

赤いミニーのじゅじゅ

どんぐり。

帰り際おもしろいことがあったそうだと

19時からの説明会

教授の挨拶も長かったが

学生課の合宿諸注意というながなが

くどい説明もあつて

要は、はめをはずすなというお達し。

終わったのは21時半過ぎ

どんぐりに悪いが

いやあ出なくてよかった

くたくたで足取りも重く帰る際

肩をたたかれたそうだと

出口で張つてたんだらう

身長160cmくらい

小柄

ボーイッシュな髪型

赤いミニーのしゅしゅ

ジーンズのポケットから

ミニキーのストラップがじゃらじゃら

女子

しかし、どんぐりよく観察してるよ

シャーロックホームズ

何やってもそつがない

そして

相棒はどうしたと聞かれたそうさ。

伝言として

「明日、朝食会場で待つ。」

「場所は、夕飯食べた場所と同じ所に座るとのこと。」
言うとしたすたと行ってしまったそうさ。

後ろに、背の高い170cmくらい

モデル系

ハーフ美人

風と共に去りぬのスカレット・オハラに
似ている

服装は地味。Gパンにトレーナー
さすがシャーロック。

赤いミニーのしゅしゅ

なにかピンとくるものがある

ラリアットの時

スローでよみがえる

髪束の振り向きざま

はっちゃきだ！！！！！

赤いミニーのじゅじゅ (後書き)

なし

吹奏楽部定演 〽祝 40話〽 (前書き)

なし

吹奏楽部定演 祝 40話

はて、どうして

どنگりがわかったのか

どنگりに尋ねると

何度か休憩があつて携帯をいじっていたら

何度かその女性のような人を

見かけたそうだ

よくもまあ、広い会場を

何人いたんだろう

探したんだろうな

向こうとしても

リアットくらつてどうなったか

心配だつたんだろうし

そして次に

風と共に去りぬを懸命に

思い出す

そっぴや

高3の夏。

無理矢理買わされた

吹奏楽部の定演のチケット

確か

パンフの表紙がそれのぱくりじゃなかったか
思い出せない

困っている私を見てどنگり
携帯をいじって検索
オハラを出してくれる

あああの顔か
合点がいった
ヴィヴィアン・リーだ

そして
もしかして
湖畔の女性か閃いた
いわくを感じる

時計を見ると、7時とすこし
朝食は昨日と同じ場所
7時から8時半までとのこと

慌てて着替える
どنگりは
シャワー室に行ってシャワーを浴びるとのこと
すまない、長い話につきあってくれて

気はすすまないが
食堂の夕食の窓辺の座席で
落ち合うことを約束 わかれる

吹奏楽部定演 〽祝 40話〽 (後書き)

なし

風と共に去りぬ（前書き）

なし

風と共に去りぬ

どんぐりが出て行った後

急速に行くのがめんどくさくなる

逃げているのか

7時半になったが行く気がおこらない

遅かれ早かれ。

遅かれ早かれ。

つぶやくようにして部屋を出る

食堂を待つ列が続いている

10分待ちか

座席などないだろう

部屋に戻るうとくるっと回れ右したところ

突然。

後ろ手に襟をつかまれ

食堂に引っ張っていかれる

ちらつと見えた

色は違うが、ミニーのしゅしゅ

今日は緑だ。

殺気だった様子に。

何事という感じで長い列が脇によけられる

そのまま窓辺の座席に

どんぐりが恐縮している

問い詰められていたのだろう

シャワーを浴びてさっぱりしたのに

申し訳ない、片手で拝む

やはり、はっちゃきだ

そしていきなり

「謝れ」と言う

なんのことが

続けて

「ストーリー」

と言う

単語のみでしゃべるので

よくわからない

見れば

ああ、湖畔の女性がいた

なんでわたしがストーリーカーなのか

聞けばバスの窓から私をずっと見ていたとのこと

自由さにすがすがしさを感じていた

と思っていたが

殺気を感じていたか

確かに

遅刻はする、怪しい風体だ
つるまない

最後部で一人きり

あやしい

怖がるのも無理はない

いつもご愛読ありがとうございます。

風と共に去りぬ（後書き）

なし

小心者の一市民(前書き)

なし

小心者の一市民

いきなり話が重くなるのも
なんなんので

緑がきれいで、空気がうまいですねえ。

タバコもうまいですよ。

あはははああ。

と、のたまう。

タバコを出して

吸おうとしたが

もちろん灰皿はない。

自分のキャラと全く逆。

入学式チャラ男系を試してみたが

逆にひかれた。

どんびぎ。

まあ、そりゃそうだ。

「何でリアットしたんだ。」

いきなり核心にふれた。

思い切って尋ねてみる

「痛かったぞう。」ややおとぼけも加え

顔もしかめてみる。

無言。

相当悪いことをしたのか私。

小心者の一市民なのですが・・・

オハラがしゃべり出す

「なぜ、私を見ていたのですか？」

どきりとするが

正直に話す。

輪にそまらず

ベンチで座っていてすごいと思ったこと

誰にも声をかけられなくても動じないことに

すがすがしさを感じたこと

誰かをつるんでいないといけない学生生活

うわべだけの友だち

本音のない関係

自分は疲れていたと伝える

そこに

一人を楽しんでいるのが伝わり

すごいと感心した

自分にはできないと思ったこと

彼女は心が強く、芯があると思ったことを話す。

オハラが語り出す

「実は私、いじめに遭っていたんです。」

小心者の一市民(後書き)

なし

ミッション系の高校（前書き）

なし

ミッション系の高校

彼女は、

父、母とともに

フランスに住んでいた。

父は、

一時期名を馳せた

世界的に有名な証券会社に勤務し

ロンドンに継ぐ、ヨーロッパの

砦としてその仕事は多忙を極めていた

そんな多忙な会社に嫌気がさし

会社が無くなる前に

父が転職したのは

先見の明があったとしかいえない

母は日本人で

何年もの外国暮らしでひどく

日本に帰りたいかつたこともあったらしい

こうして家族は

彼女が高校2年生の初秋

日本に来た

彼女にとって

里帰りで何度か日本を訪れていたが

暮らすのは初めての土地であった

父は、その温厚な人柄と

人脈の広さで

すぐ横浜の貿易会社に勤めることになった
友人がいて一緒に働かないかと
誘ってくれた事が大きかったらしい

父は素振りは見せなかったが

母のためとはいえ、

後先考えずに会社をやめたので

今後の人生に一抹の不安も

あつたらしい

フランス人らしくない

保守的な考えでもある

友人の貿易会社は

小さいながらも家族的な雰囲気で

やめた会社と比較しても

しょうがないが

そこがひどく気に入ったらしい

今も、フランスと日本を

行ったり来たりしながら

仕事を手伝っているそうだ

さて、母は

日本に戻っても相変わらず

専業主婦で

優しく、夫と娘を見守っていた

母が一番心配したのは

娘の教育で

とかく日本は帰国子女に冷たい

ことを彼女は
長年の外国暮らしで知り得ており
日本の役所の
縦割りでもあり
建前主義でもある
ところも

彼女自身の手続きとつてもみても
十分おつりがくるくらい
身にしてみてもわかっていた
そして

実際のところ
子女には日本はあたたかく
なかった

やはり
先を見越して
小さい頃から
日本語を丁寧に加え
読み書きを特訓していたが

この日に備えてきた
甲斐があったと思う

また、フランスで通っていた高校も
よかった
それは日本のいくつかの
ミッション系の学校と
姉妹校を結んでいたからだ

ほどなく

F女子大付属の高校に
編入することができた

繰り返すが彼女が

高校2年の初秋9月であった

ミッション系の高校（後書き）

なし

野バラ(前書き)

なし

野バラ

街としては

大きすぎ

高層の建物が多いが

そこはかつて

避暑でよく何週間も滞在した

二ースに似ていた

坂や意外に多い緑が

そういわせたのか

しれない

坂をのぼると

教会が見える

わざわざ

出迎えてくれた理事長は

まさにシスターであり

フランスから

異国の地

日本に来た

彼女に優しかった

学校は伝統ある

お嬢様学校であった

その進学先は有名な

Tをはじめ、K、A、J大など

幅広かった

普通科2年に編入され
彼女の新たな高校生活がスタートした

さすがに何回も

外国からの

転入生がきており

珍しくないのか

帰国子女のオハラは

すぐに

とけ込むことができた

が

やはり母仕込みの

ジャパニーズが

ものをいったらしい

まわりを取り巻く友人は

一様にフランスでの生活を

聞きたがった

彼女はきわめて

丁寧にかつ親切に一人一人に

対応した

全くえらぶるところはなかった

夏の入道雲 猛暑がさり

残暑とよばれる暑さが

続き

季節は秋になろうとしていた

その日

いつもどおりに

彼女は登校した
残暑ながらも
過ごしやすい季節になってきた

朝、いつものように
グッドモーニングと
言って教室に入室する
が

その日に限って
彼女の周りには
いつもの友だちはこない
軽い違和感を感じながらも
いつも通りに授業をうけた
しかし
休み時間は2、3人の子が
話に来てくれて
自分の心配は杞憂かと思
った

ところが朝は
次の日も同じであった
そして
休み時間は
誰も話しかけてこなくなつた
こちらから話にゆくと
なんとなくさけられている
感じがした

ある日の音楽の時間
わらべは〜みいたあり〜

のなかのばあ〜

宝塚のような

かといつてどこか懐かしい

歌を歌い終え

みんなが教室を出ていった後

オハラは女教師に

呼び止められた

音楽教師は若い臨時の先生で

外国での留学経験があるらしく

なぜかとても氣さくな女の先生だった

何度か彼女と話をしたことがあったが

呼び止められたのは

はじめてだった

彼女は誰もいなくなると

こう言った

「野バラよ」

「野バラには氣をつけなさい」

その事をつたえると

何事もなかったように

彼女は準備室に去った

まだ

その意味が彼女にはわからなかった

野バラ（後書き）

なし

百合様（前書き）

なし

百合様

あいもかわらずの毎日だったが
オハラは学校に休まず登校した

そして

休みをはさんで次の週

オハラが転入してからずっと
空いていた席に人だかりが
できていた

いつものように

オハラが

転入してからずっと

欠かさずしてきた挨拶。

誰も返す者がいなくても
する挨拶

グッドモーニングと

言って教室に入る

突然

その人だかりの中心の

小柄な女性が

オハラに駆け寄ってくる
グッドモーニング。

ニコツと笑う笑顔が

人なつつこい

オハラは思わず泣きそうになってしまった

何日ぶりに
挨拶をしてもらったのだろう
思わずハグをする

その瞬間

教室の空気が
止まった

その異様な雰囲気
に
すぐに
ぴんとくるものが
あったらしい

髪の毛もぼさぼさの彼女は

窓際に佇む一人の生徒に向かう
それは学級で
いつも上品で優雅な
感じを漂わせ
みんなが百合様と呼ぶ
女性であった

また、おめえ
やっちよるのか。

一瞬なんの言葉だか
わからなかった

百合様は

優雅に笑っただけであった
なぜかその時だけは
取り巻きを感じた

場にそぐわない
爽やかなチャイムがなり
廊下のざわめきが聞こえる
担任が来るのであろう

百合様のまわりにできそうに
なった輪が
自然にくずれる

しばらくすると
臨時音楽教師が入ってきた
何事だろうか

百合様（後書き）

なし

裏ボス（前書き）

なし

裏ボス

「はい席について」

とても元気がいい明るい女性だ

「あらっ、戻ってたのね。」

そういつて

例の助けてくれた女の子と

握手する

自然な感じだ

「おはよう。担任は急な出張で
出かけてるので私が来ました」

あいかわらず明るい

担任の出張がこうもうれしい人も
いるまい

何氣をよそおって

窓側の百合様を見る

知らなかった・・・

優雅であるはずの彼女が

ひどく憎々しい顔をしている

やはりそうとう

くやしかったのだろう

彼女が

俗に言う

裏ボスだったのだろうか

まったくわからなかった

それにしても
女教師の明るいこと
私の事をわかつているような
はしゃぎようだ
この人も道化だ

聞けば

ボーイシユの彼女は

下町に長く続く花火師の家に生まれ

(あの界隈の元締めをしているらしい)

(元締めが何かはあとでマフィアと母に教わった)

そして、夏から秋の始めまで

全国を花火巡業し、帰ってきたらしい

もちろん高校には

大将自らお願いにあげり。

シスターもその下町、江戸っ子魂に

フランスの友愛を重ね、

いたく氣にいつているらしい

また、休むことについても

後で、補習を受けることを理由に

2学期始めの2週間休むことを

許可しているらしい。

しかしながら

そんな彼女も男手一つで

育てられ

物心ついた時には・・・

お母さんは、体が弱く
亡くなってしまったそうだ

まったく

彼女と、

彼女の育った環境は

ここでは正反対であるが

彼女のお母さんが

この出身ということだ

彼女は自ら決心して

入学したらしい

おやじに言わせれば

死んだものに遠慮することはない

おまえはおまえなんだから

好きに生きるがよい

と何度も何度も諭したらしいが

父親譲りの

一度こうと決めたら

貫く性質

勝手に試験を受けて入学して

しまったらしい

まあ彼女らしい

裏ボス（後書き）

なし

ヒカルの碁(前書き)

なし

ヒカルの暮

ここまでオハラは一息に話す
はっちゃきは
ぼりぼりと頭をかく
真面目に語られすぎて
恥ずかしかったのか
飲み物を取りに行くと
一言

どんぐりを見れば
いつのまに
そんなに食べたのか
皿がつみあがっていた
私にまたポテトをすすめてくる

彼女の半世紀をみた心境
頑張ったと
声をかけたい
衝動にかられるが

会ってばかりの男に
そんなこと
とも考え
言葉を飲み込む

飲み込んだ言葉に詰まりながらも
どうしたらいいものか
氣まずい時間が過ぎる

こんな時こそ

気のきいた事を言えばいいのに
どنگり

ポテトを食べている

期待した私がばかだった

どんだけ

ポテトが好きなんだ

周りを見ると

なんだかひとけがさびしい

時計を見ると8時45分

もうすぐ、学部ごとの

オリエンテーションが始まる時間だ。

聞けば、全員文学部とのこと

なんのことはない。

同じ穴の貉だ。

教育学部は、講堂で、

文学部は、昨日の体育館らしい。

どうせまた、

しけた学生課の見張り付き
だらうて

昼食時に会うことを約束する

心なしか

オハラがホツしているような感じもする
氣のせいかな
誰にも言えなかったことを
初対面にいうのも
なんだが
それだからこそその
ものもあるのか

まだ残るポテトに未練を残す
どんぐりを
追い立て
体育館に向かう

予想はしていたが
つまらない

なんでこんなつまらないのか
文学部がいかに素晴らしいかの
次から次への名だたる先生の
演説

本当にあくびがでるくらい
素晴らしい
思いつきり
伸びをしながら
あくびをすると
よっしーの視線が痛い

完全にマークされているようだ

わしは問題児か

何もしとらん

どんぐりを見ると

深く考え込み

神妙にメモを取り

聞いている

あきれた

どんぐりも俗にまみれた。

まあ所詮、人の子。

一氣に軽蔑・・・

と

メモの手元をみる

おいおい

いつ用意したのか

よく見る

新聞朝刊の

「次の一手」の切り抜き

さらに白コピーで

ほかの書類と区別がつかない
さすが

時間の使い方を知っている
ここまでやるとは
恐れ入った

まさにヒカルの碁。

ヒカルの碁(後書き)

なし

オリエンテーリング(前書き)

なし

オリエンテーリング

苦行の時間は終了した。

午後は、大自然を感じてほしい。
とのことで、な・ぜ・か

オリエンテーリングをやるそう

オリエンテーリングとは、
敷地の中に

アルファベットの文字が

書かれた看板があり

それを探すとのこと

見つけずらい場所は

もちろん点数も高い

これは、何人脱走するか。

「アトラス島からの脱出」

サンフランシスコ沖の島だ。

いつかロブスターを食べながら

見てみたい

を思い出した。

なかなか粋な計らいだ。

部屋で寝てるか。

さらに説明は続く。

4人のチームでやるそうだ

ますます

大自然の中で、学生課が
どのように監視に腕を発揮するの
か
大いに期待するところだが
例によって
背番号順か？

期待を裏切り
なんと

チームは自己申告制。

誰と組んでもかまわないが
スタートで申告すること。

そして、

ある程度の点数以上にいかない
と
夕飯の食材がもらえないらしい。

えっ。

夕飯の食材。

夜は自炊か。

ここまできて、カレー作りとは
下手な臨海学校だ。

というか

山だから臨山学校か。聞いたことがない。

それにしても

なんちゅうゲームだ。

なになに

これで協調性、集団性、

体力、氣力、根性を見るとのこと

体力、氣力、根性

どっかで聞いた台詞だが
まさか大学で試すとは

これで、怠け度でも見るのか
それなら早々に白旗です

開始時間は13時半。

グラウンド集合だそうだ。

話だけで疲れてしまった。

込むといやなので、

どんぐりは食べる氣まんまん
で話終了とともに

食堂へ

さすが動けるデブは違う。

さっそく、

ポテトをコーヒーを
どんぐりにお願いする。

さつき軽蔑しそうに

なっていたのに
持つべきものは

友だちだ。

にやりとしたところへ

オリエンテーリング(後書き)

なし

第一関門 草食系（前書き）

なし

第一関門 草食系

満面の笑顔ではっちゃんき。

開口一番。

一緒に組もうか。

やはり、そこか。

グランドの申告だけ居て

あとはバツクれるか。

素早く脳裏にずるい考えがよぎる。

それにしても

ここまで落ちぶれたか。

そっとオハラの色をうかがう

はっちゃんきにまかせれば

大丈夫という

顔をしている

信頼関係はあつそうだ。

それにしても、

学生課も考えたものだ、

4人チームができるかどうかで

すでに第一関門。

この昼食時間が鍵となる。

男女混合チームとすること、
など

しけたお題をだされなくてよかったが。

まあ、断るのも

おつだが

ここは、騙されてやるう。

騙されるのも時間の問題か・・・

後は、氣のいい

どんぐりがうまくやってくれるだろう。

本当にマラソンが役に立った、

後で周辺の地理を聞こう。

なんだかウキウキする自分が怖い。

今日は食べれそうな氣がする。

そして、もしや

夜が食べれないかもしれないので

しっかり昼食を食べることにする。

メニューは、

というかバイキングなので

自分で選んで

というか

並んでいない場所のみ。

シチューとパン。

唐揚げ。

おこちゃまか。

というか、夜力レーなのにシチューを

とるあなたはいい。

しかしながら、シチューの中にクレソンの細かいのが入っていておいしい。パンも自家製のようだ。なかなかやるな、B大。

どنگりもおかわりするわけだ。

いつのまにか、

うちのテーブルに、はちやきと当然のようにオハラがいる。

朝の事は何だったんだろう。

わしはストーカーかい。

容疑は晴れたのか???

他のテーブルは、ナンパ合戦か。

少ない男子に女子からのお誘い。

アタックが集中。

こちらは先約済み。

売約済みか。

草食系。

もとい、がつつい女子か。

それにしても氣の弱そうな男子が多い。

入学式のはっちゃん系はあまり見あたらない。

性格テストで、学部を半々にわけたか。

学生課ならやりそうだ。

みんなで食べ
私も食べているので
どنگりは特に機嫌がいい。

食事は大勢で食べるのがいいね
と喜んでいる。

そんなに食べて大丈夫かというぐらい
ポテトに大盛り
私にも食べるか聞いてくる。
みているだけでお腹いっぱい

さらに、かいがいしく
コーヒーやお茶を運んでくる
いがいにはっちゃんきは
日本茶派のようだ

みんなで安堵したところで
じゃあ着替えてくるわ。
と

言い残し
女子二人は去っていった

というか
うちらと組むかどうかのこちらからの
返事はしていない・・・
恐るべし女子パワー。

さらにどうして
着替える必要があるのか
そのまま

いいのに・・・
理解に苦しむ。

どنگりに聞くと
いろいろあるんじゃないの
とのこと

何がいろいろなのか。

そんなこんなでうちらも部屋で
横になるべく戻る

おやしがい。

第一関門 草食系（後書き）

なし

山ガールズ やったね 祝 50話(前書き)

なし

山ガールズ やったね 祝 50話

誰かに激しく起こされる。

横になつたら眠ってしまった。

どんぐりさすがだ。

まあ、このまま眠りについてもよかったが・・・

高3の時、

パチンコの日のお楽しみ抽選会でもらったやくざな金時計をみるもちろん金メッキ。

あらら

時間があと5分しかない。

それより、どんぐり

なんちゆう、格好だ。

ジョギング、マラソンではなく。

それは、アウトドアか、

そのポケットがいつぱいのベストは何。

釣りのライフジャケットのようだ。

本人は、そのポケットの道具を

解説したいらしいが

時間を理由にパスをした。

まあ、はっちゃきあたりに
説明すれば彼も満足だろう。

さすが、どんぐり

裏出口から出る。

見れば、グラウンドは宿舎斜面を
下ったすぐだ。

それにしても

山の中腹だけあって斜度がきつい。

人が蟻のように群がっている。

あの白いてんとうが受付か。

みれば、何組かの人ばかりは、
森の方に向かってている。

13時30分になつたか。

裏口を通らなかつたらもつと
時間がかかったことだろう。

どんぐりに感謝だ。

あのベストはいただけないが・

それにしてもすごい人だ。

オハラを見つけれぬか。

またまた例の虫が騒ぎ出す。

どうする。やめるか。

急速にめんどくなつた。

他の女子もこちらを見てそわそわしている。
まだ、メンバーを見つけれないのか。
なぜ、男子を誘う。

近くを突然。

大音量で

ゴッドファーザーのテーマが。

驚く。

携帯か。

どنگり、なんちゅう着信音よ。

あんたはマフィアか。

イタリアか。シチリアか。

そんなことおかまいなく。

もしもし、ああこっちこっちと
手を振っている。

おいおいどنگり

いつの間に

はっちゃきと

番号交換したの？

よくわからない。

「おそい」

はっちゃきの一言。

この人はしゃべらないが重みがある。

服を見て驚いた。

そんな服があるんだね。

スカートみたいな

ジャージをはいている。

どنگり曰く、山ガールズらしい。

それは、何。何かのグループ。

ぽかんとしていると

笑いながらはつちゃきが、

山に上るのがはやってるんだよ。

と、ばかにしたように言う。

褒めてもらいたかったのか。

理解に苦しむ。

こっちだって、釣りのベストだぞ。

と言いたかったが

そこはいじらないらしい。

オハラも、スポーツ系のジャージだ。

ウインドブレーカーも

爽やかな感じ。

スタイルがいいのでよく似合う。

少しどぎまぎした。

学生課に受付に行く。

あらかた出発したらしい。

よっしーがいる。
言葉は出さないが、
よく相方見つけたな。
チエツ。第一関門クリアかよ。
という態度。
わかりやすい。

地図をもらって森に向かう。
新緑の芽。そして、日差しがまぶしい。
気持ちがいい。

思わず笑みがこぼれる。
それを見てオハラも微笑む。
なんですよ。

地図を真剣にみながら
どんぐり
さっそく七つ道具の登場。
すごい。
コンパスを持っている。

ブルーの長方形の青い枠の中に
方位磁針が入っている
道具はセンスいいね。

というか初歩的に
コンパスなしで
山に行かせるのか
鬼だ
遭難者出るぞ

学生課

地図には確かに北を指す
矢印が書いてある
これはもらったか。

山ガールズ やったね 祝 50話(後書き)

なし

ゴール目前(前書き)

なし

ゴール目前

ところが、歩き始めて
しばらくして

はっちやきが何か騒ぎ出す

どんぐりの道が違うと言う

私はどっちの言い分が正しいかわからない

どんぐりは自分は正しいと言ってゆずらない

どちらが正しいのか

そこで一言

あそこで休みましょう

オハラが東屋を指さす

おお、あんなところに

はやくも仲間割れ。

万事休す。

いや休憩か。

まあ、ひとまず休んでから考えることにして
休憩することにする。

はっちやきとどんぐりが持論を戦わせている。

ゆっくり、ベンチに横になる。

ふと天井をみる

何かつり下がっている。

赤と白で半分ずつ。

もしかして

あつたああああ。

我ながら恥ずかしいくらい大きな声を出してしまった。

みんなビツクリする。

周りに他のチームがいなくてよかった。

みんなも私の発見を喜んでくれる。

オハラは、うれしそうに

私の両手を握って上下に振っている。

思わず私もやっている。

何だこの距離感は。

その後、空気は変わり。

どنگり、はっちゃきは和解除

仲介としてオハラを立てた

オハラは靈感があるのか

次々、ある程度近くの場所までいざなってくれる

さらに、あなたはスパイかどنگり。

時々、山の中で大音量のゴッドファーザーが鳴る。

携帯が通じるんだね。(やるなAB)

すぐに他の男子チームと連絡を取り合って情報交換。

本当にどنگりは素晴らしい。

どنگりが情報をしいれて

提供する。

なんでも、全問正解は、高級な肉らしい。

なんで肉なのか。

家らは野獣か。草食系はどうした。
本当にわかりやすい学生課だ。

さらに、オハラやはっちゃきも

私らは積極的に行かないことを見越して
通りすがり班の女子と全面協力。

どの班も夕飯がかかっているので必死だ。

この時点で、学生課のねらいは達成されたと
言えよう。

よくやった学生課。

くやしいが、よっしー。

もちろん、あなたの考えでないとと思われるが。
みんな一致団結してるよ。

麗しき隣人愛だよ。

その後も、森を抜け、丘を越え、

ちよつとした山を登り、

ちよつとした山では、オハラに手も差し伸べて

あげました。

自然にできた自分が怖い。

そして、

どんぐりのベストはドラえものの

ポケットのようにいるいろできて

15時くらいには

携行食と言って

カロリーメイトや飴が出た。
遭難しても野宿できそうな勢い。
本当にしたらいやだけど。

なんやかんやで

15時少し過ぎには

だいたいのところをまわり

後はゴールという時。

突然、それは起こってしまった。

ゴール目前(後書き)

なし

ドクターロトリー(前書き)

なし

ドクターコトー

先頭を行くどんぐり

続いて歩く

はっちゃき

私

オハラ。

「はっちゃき、

もし

宝くじ当たったら何につかう。」

しゃべり疲れて

私はそんな質問をした

オハラは意外に

あまりしゃべらず

聞いているのみ

会話は

常に私と

はっちゃき

今までの会話の延長で

だれながら行く。

はっちゃき

「ばっかじゃない」と

笑いながら

振り返ろうとして

氣をとられ

そのまま足がもつれて

尻餅をつく

いたああああああい。

悲鳴に近い

驚いてどんぐり

振り返る

見れば今までも歩いてきた

何のことはない下り道

だが、大きな木の根が

道の中央をはしっていた

あまりのくだらない質問に

力がぬけ

そこに足をとられたらしい

明るいはっちゃきが黙り込む

懸命に大丈夫を繰り返すが

顔も青い

オハラがすぐに

駆け寄り

足を見る

友情が深い

まったくだ

しょうもない質問に

色をなくした

続いてどんぐり

冷静に

ピンクの線が何本もはいつた

ブランドの靴をぬがせ
靴下もぬがせて
足をさわって
痛みを探る

指でさわって
押してみる
はちゃきの顔が
苦痛でゆがむ
声を出さないとこが
はっちゃきらしいが
相当痛いのが分かる。

こりゃあ、ねんざか
うちどころ悪ければ
骨打ってるか
いかんせん
固定したほうがいいなと
つぶやくように
どنگり
経験があるのか
手慣れたもの
ちよつとしたドクター
まさに
辺境の地で

ドクターコトーが。

(はい、今日のキーワードです)

ドクターロトー(後書き)

なし

2次遭難（前書き）

なし

2次遭難

どんぐり

すぐに

草むらに消え

手頃な木の枝を探してくる

そうして

ジャケットから

包帯を取り出す

本当に恐れ入ったの鬼子母神

こんなところでギャグも

しょうもないが

なんでも出てくる

ないものはないのか

手早く包帯を巻き

固定する

聞けば

どんぐり

救急救命の講習をうけたとのこと

誰にでも

簡単に止血や人工呼吸の方法を

消防署の人が

教えてくれるらしい

その証の
黄色のカードをちらつかせる
まぶしいぜ

旦那

あんたはなんでも
できるねえ

しかしながら

この後どうするか

一同黙り込む

「置いてけ」

相変わらず言葉が短い

そして重い

痛さで

うめくように

はちゃきが言う

ここに置きざり

みんなで救助を

求めにいくか。

何か違う気がする

オハラ

私が助けを連れてくる

少し涙ぐんで

決死の覚悟だが

はっちゃきを

落ち着かせるように
慈愛に満ちた
やさしい言い方

だめだ

2次遭難のおそれがある

どんぐり

どうした

さっきと違って険しい言い方

とげをなくすように私

大丈夫だて

宿舎なんてすぐっしょ。

甘くみんな。

どんぐり

いつにもなして

吼える

そうやって遭難は始まるとのこと

ここは慣れたどんぐり

何を慣れているのか？

私で

救援をもとめにいく方向に

固まった

何かが頭の中で鳴る。

何か違う。

2次遭難（後書き）

なし

告白(前書き)

なし

告白

女子を残していいのか。

時刻はもうすぐ16時。

春とはいえ、

夕刻は近い。

山ガールズとはいえ。

女子二人は軽装だ。

ここは男が護るべきなのか。

くだらないギャグの手前

私が残ることを

提案する。

どんぐり、

少し思案する

が

そうだな

それでいこうと

うなずく

どんぐり、オハラで

スタート方向に戻る

生きて帰れよ

手を軽くあげて
後ろを振り返らずに
どんぐりが行く
戦場に行く兵士のようだ
頼もしい背中が
緑に消えていく

頭上でからすが泣いている
その悲しそうな鳴き声に
夕方が近いことを知る

静けさがあたりを包む

「寒くないか」

はっちやきに聞く

「寒くない」と答えるが
腰に巻いていた

ウインドブレーカーを
肩にかけてやる

「ありがとう」

めずらしく素直だ。

突然

「昨日はごめん」

はっちやきが謝る

何のことかめんくらう。

そうかラリアットか。

すっかり忘れていた。
まあどうでもいい。

それより足の捻挫か？
そちらの方が心配だ。
痛まないか聞く。

まあ、痛いだろうが。

「話したいことがある」
改まっではっちゃきが言う。
なんだ告白か。
動揺を隠して

「金ならないぞ」
ときがる。

告白（後書き）

なし

因縁の対決（前書き）

なし

因縁の対決

実はオハラ的事なんだけど
はちゃきが話し出す。

なんだそつちか
安心するのか
どぎまぎするのか
自分でも
わけがわからん

語り出した内容は
高校でのいじめのことであった
やはり、正義感の強いはっちゃき
百合様が許せなかったらしい。

わーらーべーは
みーたーりー

表の顔と裏の顔
そこを
たちどころに
見抜く
臨時音楽教師
やるな。

KGBか、M I 5か。

そして
因縁の対決に。

やるかやられるかになったそうだと。

オハラがはじまりの
はずが

因縁対決に巻き込まれて
本当に悪かったと
はちゃきは、言う。

例えば、と
ことわり

こんなことをされたんだと。

トイレで、上から水をかけられたり
さむい

そして、なんと古典的。
女子校、女子特有の陰湿さを
感じる

こわい。
トイレにもいけないのか

机の中の
教科書に

カッターの長い刃がはさまっていたり
こわっ。

周りにも気づかれずに
するんだらう
さらに複数関与で
連携プレーだ

しかしこたえたのは

挨拶だったそうだ

はっちゃんきは

じいさんに礼儀は

たたき込まれていたから

しないと気持ち悪い

また

がんらいの負けず嫌い

そんな事で信念を

曲げるわけには・・・

そしてオハラも

フランスは

一度会ったら顔見知り

だから

ハグや挨拶、あたりまえ

だから

つらかったらしい・・・

さらに

高校に編入する時

絶対に

自分で教室に入る時は

日本式に挨拶すると

心に決めていたらしい

お母さんからの

日本になじむための

心からの

アドバイスでもあったようだ

だから

やめることが

敗北と思いつめていたらしい

また、母を裏切ることになると

もちろん

お母さんは、

いじめのことを

知らない

シスターの振る舞いや

名門に

安心しているのだろう

お母さん

日本はそんなに平和で

ないですよ

学校なんて

いろいろが渦巻いて

かえって

ややこしい

閉鎖感、閉塞感を感じます

因縁の対決（後書き）

なし

エヴァンゲリオン(前書き)

なし

エヴァンゲリオン

今さらながら

まあ、大学に入学して

よかったか

自由だ

付属からうちにも

相当ながれてきている

らしいが

数が数だけに

分母だよな

濃度が薄まっているだろう

なんだか

中学理科の問題か

濃度も苦戦した

しかしながら

本当にきたないいじめの

エトセトラ。

がっかりの反面

よくここまでこれた

話を聞けば聞くほど

感じました

そしてまだまだ

子どもが子どもなら

親も親

百合様の父は
泣く子も黙る
市の市議会議員様
噂によると陰のボス
当選歴十数回
市議会議長も歴任らしい
そして
学園にも相当
寄付を積んでいるらしい
表の顔と裏の顔

それはそれは学園も
ちよつとやそつとでは
手をだせない
完全なバリア
まさに
エヴァンゲリオン
のイーティーフールド。
碇シンジも
真っ青だ。

強力だ。
強い。強すぎる。

すみません。
3日ほど旅行に出るため
小説を休みます。

エヴァンゲリオン(後書き)

なし

冷たい手(前書き)

なし

冷たい手

お待たせしました。
この世に戻ってきました。

百合様のお父さんの話

権力は

あればいいのか

一つ取ると

次もとりたいのか

そんな中

わりを食うのは

やはり一般市民

世の中の多くの人は普通です

泣くに泣けず

なきにしまある

大阪市

さてさて

話を戻そう

はちゃきも

誰かに

伝えたかったんだらうね

この危機的な状況で

やはり人間

危機的だと

最後に

これを託したかった

言いたかった

伝えたかった

それが

あるのだろうか

空を仰ぐ

夕闇が濃くなってきたようだ

だめだこのままでは

はっちゃきを

おぶって

行こうか

でも

迷うんではないか

二次遭難

どんぐりも

「絶対動くな。」と

言っていた

30分は経っただろうか

足音は全く聞こえない

気配もない

寒くなかろうか

はっちゃきの手を握る

はっちゃっきがビクツとした

冷たい

足はどうか

さわってみる

やはりまだ痛いらしい

少しはれている感じもする

冷たい手を

包んであげた

少しは温かいし

誰かに側にいてもらつと

安心するだろう

手を握つたら

はっちゃき

静かになった

泣いているのか

それから沈黙が

続いた

私から

何か話をしようと

思ったが

全く

浮かばない

冷たい手(後書き)

なし

ターミネーター(前書き)

なし

ターミネーター

眠れない時のように
数でも数えようか

そうはつちやきに
言ったら

急に笑い出した
おかしなやつだ
そんなにおもしろいか

私もなんだかおかしくなつて
笑ってみた

大きな声で
笑ってみた

二人の声が
暗い森に吸い込まれていく
しかし

なんだかすつきりした

人間大きな声を
出したり

思いつきり笑ったりすると
若返るつて

前に聞いたな
人間の原点に
戻れるのだろう

突然。。。。

本当に突然。

遠くから懐中電灯の

灯りが

声も聞こえる

何人かいるようだ

やったあ

助けが来た

本当にうれしい

思わず涙が出た

男のくせに

なんばしちよつと

泣くんでない

天国の

大好きだった

時々私に渴を入れる

ばあちゃんの声が

聞こえるようだ

はっちゃきも

本当に安心したのか

力がぬけたようだ

のっぺり顔の

なんだか印象に残らない

男が先導だ

年齢不詳

いや若いのか

どうやら

施設の管理人らしい

後ろに続くものたちも

同じく印象に残らない顔だ

たんかを持ってきている

そしてどんぐりが
いる

戻ってきてくれたんだ

私が気づくと

ニコツと笑って

アイル ビー バック

親指を立てる

あんたはターミネーターかい
というか

シュワちゃんかい

こないだ

けがして7針縫ったぜ

つつこみどころ

満載だ

そこで

気がぬけた

ターミネーター(後書き)

なし

たんか(前書き)

なし

たんか

こちらも助けなきや

俺が護るといふ

意識が働いたか

はっちやきに

かがんで

施設の無表情が

足を見る

どんぐりと

同じ事をしている

さすがどんぐり

医者ではないが

何度もこの種目で

けがをした人を

みてきたのだらう

重い顔をして

一言

大丈夫

ただのねんざです

おいおい

重い顔をするなよ

びびるぜ

っていうか

これがいつもの顔ですって

ぐったりしながら
はっちゃきを
そおつと
たんかにのせる

私が後ろを持つと
したら

職員その2

職員その3が

これは私たちの仕事です
そういつて

素晴らしく息のあった連携
プレーで

静かに

しかしながら

早足で

運んでいく

ひよいひよいと

川の飛び石を渡るような

軽快さだ

さすが

山慣れしている

5分くらいしただろうか

突然

目の前が急にひらける

なんのことはない

森を少し行けば
すぐに

グランドだったのだ
スタートした時の道とは
反対に出たが

おいおいおい
どんぐりを
見る

どんぐり
いやあーうちらも
迷ったんだよ
頭をかく

あらぬ方を向く
嘘がわかりやすい人だ
どこ、見てんだよ

二人つきりにする
作戦だったのか
よくわからん
どんぐりは

たんか(後書き)

なし

祝 60話 映画のラストシーン(前書き)

なし

祝 60話 映画のラストシーン

はるか向こうの

グラウンドに

遠くで

一人佇む人がいる

背が高く

すらりとしている

オハラだ

うちの姿を

見て

すごく大きく

手を振る

何度も何度も手を振る

本当に一生懸命

手を振っている

泣いているんじゃないか

だいぶ近づいたら

オハラが向こうから

駆けだしてきた

そんなに急いで

転ぶなよ

すごい勢いだ

息せききって

やってきた

大丈夫

はっちゃきのたんかに
駆け寄る

はっちゃき

ニコツと笑って

大丈夫

オハラも

力がぬけたようだ
肩でわかった

私の方を見る

よかった

目でそう合図しているようだ
何もしゃべらない

でもその目に

きらりと光るものが

あったのは

見間違いだったか

たんかと並行して

歩きながら

はっちゃきに

言葉をかけている

そのまま医務室に
行くらしい

明るいところで

もう一度みてみるそうだ

よかった

あとは二人にまかせよう

どنگりと並んで

見送る

いいムードだ

よくある映画の最後のシーン

ここで

主人公は

いつもかっこいい

氣のきつたことを

ぼそつと言っただ

おれもなんか

どنگりに言っただろうと

考える

しばし沈黙

俺が言おうとする

そこへ

先に口をはさむ

どنگり一言

メシだ

ムードもなにも

あったもんじゃない

がっかりだ

私の落胆にかまわず

どんぐり

宿舎と反対の方に

歩き出す

どこへ行くのだ

祝 60話 映画のラストシーン(後書き)

なし

フードファイター いよいよ師走です(前書き)

なし

フードファイター いよいよ師走です

スタスタ黙って足早に
歩く

遠くで

ざわめきが聞こえる

なんかがやがやと

みんなが集っている

そして、明るい

火をたいているのか

そうか

カレーか

ラリーの景品は

カレーだもんな

でもうちらは・・・

騒ぎで

作ってない

食べれるのか

どんだん

どんぐりはかまわず

先に行く

学生課のヨツシーのところだ

一直線に向かう

迷惑をかけたので

仁義を切るのか

あやまりに出頭か

そして
また大目玉か
クラクラする

ヨッシーの目の前には
火が燃えている
そんなに燃やして
大丈夫かという
ぐらい
燃えている
熱いぜ

そしてそこには
大鍋が
ぐつぐつと
カレーが煮えたぎっている

ヨッシーの心の中なのか

一言
食べ

そう言つて
ご飯の大盛りを
渡してくる
後は自分でカレーを
よそえということか

渡すと何も言わずに去る

いい奴なのか

謎が多い

どんぐりも

裏で手を打っていたのか

心得ている

まさに情報部員

いや

諜報部員

それにしても

食べ物への恨みはこわいからな

どんぐり

よそつやいなや

がつがつ

一言もしゃべらずに食べる

すごい

圧倒される

相当腹がへっていたのだろう

その様子を見て

私も食べなきゃと

思う

いつもは人が食べているので

お腹がいっぱいになるが

今日は

食べる

もりもり食べる

そうしないと

倒れてしまう

食べたら

はっちゃきが

元気になるような気がしたからか

なんだかしらないが

涙がでてきた

涙はどんどん

出てくる

なぜ泣くんだろう

鼻水もでてきた

でも食べる

無事でよかった

生きててよかった

どんぐりも

何も言わずに食べる

もくもくと

二人で競争しているようだ

フードファイターか

いつもなら無理と思うが

今日はなれそいな気がした

遠くで歓声が聞こえる

誰かが炎に

食用油でも

かけたのだろう

ざわめきとは

対照的に

静かだ

星がきれいだ

こうして2日目は終わった

フードファイター いよいよ師走です(後書き)

なし

ミッションインポッシブル(前書き)

なし

ミッションインポッシブル

はっちゃんきは
朝食にこなかった

オハラも同じく
姿を見せない
どうしたのだろう

まったく情報がない

相変わらずポテト大盛りを
むしゃむしゃ
さらに皿をタワーのように
積み重ねている
どんぐりに聞く

むむ

・・・

珍しいことに
情報がないらしい

箝口令がしかれているのか

頑張れ

ミッションインポッシブルどんぐり
すこいぞ

今回、本家は

ドバイのタワーから飛び降りるらしいぞ

あおるが

まったく聞いていない

黙々と食べている。

他に左右されない

大物だ

大器晩成か

昨日の事件で

危機感から

体が反応

私もしつかり

朝食をとる

そっぴや

早寝 早起き 朝ご飯

なんか大学の掲示板にあったか

そこまで介入するか

よけいなお世話感

満 載

私もすんなり食べられる

きつと胃が大きくなつたんだらう

どんぐりが

満面の笑顔で

言う

なぜにやりと

笑う

フードファイター養成所か

わたしは

デブにはならん

安心しろ

皿は積み重ならない

ミッションインポッシブル(後書き)

なし

頑張れ ダチヨウ倶楽部

さて今日の日程は
どんぐりに聞く

今日は3日目。

いよいよ

明日は本土に帰れる。

なんじゃそりゃあ。

どんぐり誰に言ってる

その後

どんぐり

くぐもった顔で

今日がいよいよ山らしい。

なんだどうした

はっちゃきたちか

急激悪化で

病院に搬送か

一抹の不安がよぎる

その後

語り出した

どんぐり

なんのことはない

うちの親分

教授との面会らしい

私が大笑いする

くっだらな。

上にへつらうな

大きな声で笑う

どんぐり

とても真面目な顔で一言

干されるよ

なんでも

どんぐり情報網によると

(以後M I D)

(おいおい

略せばいいつもんじゃないでしょ)

(そしてM I Dって何)

まあいつか

学生課は、この合宿

第一弾の文学部を

40名ずつ

5クラスにわけ

1 I A

1 I B

1 - C

1 I D

1 I Eと

クラスわけしたらしい

らしいは私だけで

みんなは

くだらない

くそ長い

オリエンテーションで

しつこく

くどく

聞かされたらしい

さらに

同じく教育学部も

らしい

頭は2か何かだけど

そこで

軽く

リアクション

おいおい

聞いてないよ

ふりもしてしまった

ダチヨウ倶楽部が

(というかダチヨウ倶楽部

パンクの誰かと組んで

楽曲を作ったらしい

こないだ配信されてた)

（「聞いてないよ」
が

パンクになつてた
いがいにかっこよかった
誰かバンド名教えてくれ）

誰に言っているんだあんたは

聞いているのか

どんぐりが

怒ったように言う

はいはいクラス分けまでは

そして今更ながら

私は

11E。

おお、いいクラスだね。

自分のギャグに

我ながらうける。

わっはっあは。

つぼにはまつたか

自分で言つて

自分で大爆笑

笑いがとまらない。

おいおい

俺ってこんな

キャラだったか

頑張れ 夕子ヨウ倶楽部(後書き)

なし

し
た(前書き)

なし

し
た

というか

どんぐり

無

点

というか

目が怖い

どんぐり続けて

しゃべる

そ・れ・で

実は

みんな

同じクラス・な・の

なにが同じなのか

一瞬

ぽかんとするが

そうか

クラスが一緒なのか

もしかして

前に聞いた

はっちやきも

オハラも

どんぐりも

すごい

まさに東洋の奇跡

ミラクルですねえ

ハイテンションで

長嶋監督の

マネを試してみた

どんぐり

本当に

心底

あきれている

さすがに

朝からこのテンションには
ついてこれないらしい

というか

私はこんなに

テンション高くないぞ

どうした

どうした私

たががはずれたか

遭難でおかしくなったか

誰だってこの
テンション
ついてこれない

というか
往年のギャグ特集に
なりつつある

した
の2億4千万の瞳より
(とんねるず)
たちが悪いか

どんぐり
本当に
厳しい声で

「あなた
干されるよ」

多分
冗談も
ほどほどに
と
言っているのだから
が

どんぐりが

こんなに真面目に
なるのは
相当の理由か・

し
た(後書き)

なし

渋谷 キャッチセールス(前書き)

なし

渋谷 キャッチセールス

聞けば

合宿の悪のりで

教授に接した者が

連携網で

単位をことごとく

落とされ

留年

そして留年

さらに留年

もちろん

単位不足

それは必修のある教科

行く末は

泣きの一手で

復帰

というか何年かかるねん

長い大学人生に

なりそうだ

聞いて

がっかり

そこまで

権威を

見せたいのか

学生課の

ヨッシーに

言いたい

くらいだ

いやあいつは

ペーパーだから

だめか

でもやってくれそうな
気もするけどなああ。

っていうか

言ってる

私、すごいぞ。

ヨッシーを見直すとは。

昨日のカレー事件か。

男は黙ってS幌ビール

どんぐり一言

M I D

先輩がそれやって

就職落とされたらしい

笑うにわらえない

健さんを

ヨッシーに感じたんだけどね

ただそれだけです。

しかたない

どんぐりが

そこまで言うのなら

部屋で

休まず

きちんと出よう

会場は、うちの宿泊棟の
間の

カーペットがしいてある

合間のところらしい

おいおい

そんなに権威ある人に

合間で大丈夫なんかい

聞けば

そうは見せかけず

じゅうたんびきの

部屋で

ゆったり感を出すらしい

親近感を

出すらしい

おいおい

就職氷河期の

学生の

本音を出させる

会社の手口かい

もちろん

MUB

まちがい

MID

あるいは

渋谷とかの

キャッチセールスかい

こわいね

渋谷 キャッチセールス（後書き）

なし

お宝鑑定団(前書き)

なし

お宝鑑定団

食を食べてから

歯をみがき

ちよつと

フォーマルな服を

選び

着替える

といつても

サマーセーターの

ようなもの

若干

緊張気味で

合間に向かう

珍しく

というか

初めて

5分前行動

大学に入って初めてか

11Eは

40人いるらしいが

まだ

20人くらいしか

来ていない

本当に

40人もくるのか
というのか
入るのか

まあ、吹き抜けの
ちよつとした

ホールなので

収容できそうな

気もしないでもない

部屋の片隅に

将棋とか

オセロとかあり

やる気感ゼロの空間

さらに

出窓のようなところに

いくつかの

レトロなものが

飾ってある

大学倉庫から持ってきたのか

置き場所がなかったのか

捨てたかったのか

昔のラジオがある。

でかい

そして

たぶん

インテリアにしようと思

ったんだろう

蓄音機がある

これで

何か聞けないか

クラツシツクを

聞けたら

落ち着くし

いいムードになるのでは・・・

もう一つ

謎の物体

なんだ

レバーがある

ぐるぐる回す取っ手がある

なんだなんだ

まわしてみる

なんだこりゃあ

私の背後に

突然登場どんぐり

ぼそりと

計算機

えええええ。

ざぶとん一枚。

(というか背後でぼそり

こわーい)

お宝鑑定団だ

もとい

出張お宝鑑定団IN

宿泊所

大学の良いアピールになるであろう

これこそ

ヨッシーに教えてやりたい

けつつつ。

とか言われそうだ。

さて

先ほどから人数は増えたが

30名弱が

なにやら

取り巻きを連れて

誰かがやってくる

なんだなんだ

あいつらは

どこのドイツだ

息巻く

なんと

学生ではないか

なにやってんの

あんたら

相手は

そんなに有名人なのか

というか

ゴマをすっているのか

媚びをうっているのか

学生の風上にもおけないやつらだ

お宝鑑定団（後書き）

なし

東大卒（前書き）

なし

東大卒

取り巻きが

さあつと

離れて

行儀良く

教授の前に

レビューショーか

他の学生もつられて

なんとなく

教授の前に集まり座る

ざつと三五名ほど

そこへ

「遅れてすみません」

若い声の上からふつてきた

吹き抜けの上の方が

連絡通路で

じゅうたんの合間へ下がる

階段をみれば

なんと

はっちやきとオハラ

じゅうたんの階段を

ゆっくりと

はっちやきは

松葉杖だ

オハラが支える

まだ捻挫が痛むのか

教授は

遅れ2名いるが

相手が人が人なので

騎士道精神か

弱者保護か

怒りもせず

かえって

椅子を用意してあげる
ほど

むむ

怪しい情報で先入観か
わからない

やっと落ち着いたか

教授おもむろに

「もんかから、きたんだけどね」

何を言っているんだ

言葉がわからない

門か

どこの門だ

家の入り口のことだろ

すごい顔でどんぐり

私の足ももをつねっている
いてええよ

声がでない
結果的にでなくてよかった。
おしりからもね。

どんぐり

表情を変えずに

こちらを向かずに

「文部科学省」

と小さな声

口が開いていない

あんたは

いつこく堂か

尊敬する

なんでもできるな

紅白もでれるぞ

（ちなみに今年の紅白

KARAはかなり前から

当確まちがないだったらしい）

なんのこっちゃ

今度はゆっくり

さつきより口を開けず

「文部科学省の略」

スーパーさいあ人だ。

むむっ

気づかれたかと思いきや

教授

前の方から順に

何か配っている

「元のやつなんだけどね
新しいのまだなくて」
と断っている
なんだなんだ
うちらにも配られる
なんだ名刺か

ほんとだ

ちゃんと

文部科学省とある

ちなみに住所は

東京都千代田区霞が関

三丁目二番地一号

文部科学省

むむ

泣く子も黙る

東大卒

しっけい

キャリア官僚か

無知な私もピンときた

東大卒（後書き）

なし

社長の懇親会（前書き）

なし

社長の懇親会

さつきより長めの

いっこく堂どんぐり

「霞ヶ関のお方で

そうとう偉い。

うちの大学もはくを

つけるのと、

監督官庁の文科に

恩を売るのもあつて

万々歳で受け入れているらしい」

いっこく堂を聞きながら

教授を観察

紺の細いネクタイ

爽やかな髪型

柔道をやっていたのか

背が高く

肩幅がひろい

足下は

とがった革靴

高そうだ

文学論について話している

語り口はキザだが

さすがに東大出のキャリアだけ

あつて

講義の内容はなめらか

時々英語が混じる

曰く

キャッチアップしないと・・

・・・クリエイトに

そこをリフレクションして・・

嫌みさはなく自然だ

経済界とも交流があったのか

社長らの懇親会で

相手していたのか

ばんばん

東大、京大、ハーバード

マサチューセッツ

の論文がでる

マサチューセッツなんて

舌かみそうだ

よくすらりと言える

言い慣れているんだろう

まあ、しかしながら

これだけ嫌みをいいながら

私は自分で感心していた

まず、論文などの

中身を

私でさえイメージできるように
解説している

また、何分かにいっぺん

まわりと意見の交流をさせる

これは寝せないためか
と思ったが

本人曰く

考えをどんどん

アウトプットさせるためだという

うつつんそういうものか

名だたる社長相手もあり

お客様が満足して

帰っていただくよう

自分の

知名度をあげるためも

あるのか

ここまで

勘ぐり過ぎか

社長の懇親会（後書き）

なし

人生の3大イベント

うーん

大学で何を学ぶか

私の人生とは

なんて

いろいろ考えたし

とても

悩んで

お金があるとか

ないとか

そんなことまで

悩んだけど

少し明確な指針ができた

気がする

あくまでも氣だが

私をそのように

感じさせる

やはり

東大か

そこはすごいと思った

しかしながら

大学をやめようとか

いいかげんに

生きようとか

考えていた
私にとつては
すごい運だよな

実は

私は宝くじにあたったことも
ないし

懸賞もあまり当たらない
が

大学入試で
人生の運を

使い果たしたかもしれない

なんてつたつて

スーザンボイルだもんな

そして

今回のクラス組みも
大学入試に付随した

運だったのかもしれない

しかしまあ

これはこれは

人生の3大メインイベント
進学 就職 結婚の

1つめが運かよ

つていうか

3大イベントつて

これでよかったか

ということとは

行く末は

無職で

結婚できない

男か

なんか最近

そんな番組やってなかったか

まあいつか

よしもと

なんてことを
考えながら
ぼんやりしていると
文科の授業は
終わった

でもなんだか
よかったか

終わった後に
急に男2人
女2人がでてきた
なんだなんだ

という間に
ここで

先生から
お時間をもらったので
今日のクラス発表に
相談をしたいと
思います。

いっぺんに
ざわざわしている

もしかして
さっきの取り巻きは

このことだったのか

まあまあ

にぎやかしの

めんめん

なんだろう

どんぐりに

尋ねる

そういや

はじめの

オリエンテーションで

3日目に

キャンプファイアーを

すると

言っておった

と

ほざく

なんだそりゃあ

(パート2)

なんでまあ

大学に来て

まで

キャンプファイアー

なんだろうね

その前の

文科の授業が

急に

吹き飛ぶ

いい授業だったのにな

というわけで

相談なんだね

リンボーダンスか

チークダンスか

ダンス系が多いね

なにをうちらに

させる

恐怖におののく

実は

なんのことはない

うちらで

漫才やるので

みんなは

はやしてくださいーい
とのこと

おいおい

あんたらは

よしもとか

お笑いか

なかなかすごいぞ

後は引くなよ

というところで
昼食になった。

スカイツリー（前書き）

なし

スカイツリー

今日も今日とて

ポテト山盛り

IN 食堂

あんたも好きねえ

(かとちゃんかい)

どんぐり

相変わらずの

すさまじい食欲

まさに、青春まっただ中

高校生かい

席には

はっちゃんきと

オハラもいる

はっちゃんき

少し元気がない

大丈夫か

足が痛むのか？

合間部屋は

椅子だったが

座り疲れたのか？

大丈夫？

はっちゃんきに聞く

まだ少し痛むんだけど
大丈夫
とのこと

はっちゃきは我慢強いので
我慢しているのか
我慢はよくない
どんどん
アウトプットしなければ
みんなが笑う

意外によしもとの
才能ありか!!
単純だ。

オハラも私と
話して
少し明るくなった
ような
気がする
あくまでも

そしてどんぐりは
あいかわらず
ひたすら
食べた皿をタワーにし
積み上げている
今話題の
スカイツリーか
はたまた

バベルの塔か

必死の形相から
後者を選択

それにしても
いったい何枚あるんだ

まさにびっくり日本新記録
むむむ
どこかで記憶が

前に見たことがある
聞いたことがある状態

カタカナ言葉で
何と言ったか???

さてさて
女性陣

疲れたので休むとのこと
先に引き上げる
はっちゃき

ガンをつけながら
一言
「ことわっておくけど
午後を

さぼるわけじゃないよ」
おおおお
こわいっす

しかしながら

元氣になつてきたようだ

よかつたよかつた

笑いながら

はっちゃき、オハラが去る

さるるる

スカイツリー（後書き）

なし

超、松コース（前書き）

なし

超、松コース

チャイムは鳴らんが

午後の講座

さっきの場所で

シラバスの作成

文科はいない

教授陣は東京に戻ったらしい

聞けば

うちらは運がよく

他のクラスは

50代のキーキー

ヒステリックおばちゃん先生

太りすぎでしょ

とつつこみたくなる

よくアメリカとかに

多いよねこんな感じの人

容姿の事を言ったら

「セクハラ」と

訴えられそうだ

それですめばいいが・

これで、宗教学

おいおい大丈夫か

祈れません

そして

出た

まったく理解できない

話の多い

何度も同じ話に

戻ってくる

ループ化

大学の名物教授

哲学系

おじいちゃん先生

70超えてんじゃないか

おいおい

退官はないのか

大学も楽にさせてやれよ

というか

やめさせられないのか

そして

黙っていて

あまり

話をしない

40代 不自然な髪型

カツラか

地味なネクタイ

タバコが匂うイメージ

歯は黄色い

妙なイントネーション

そして声の高低

まああんたらでやんなさい
投げだし先生

言語学

などなど

似たりよったり

大丈夫かうちの大学

いやはや

こうして見渡すと

うちらは大当たり

なんでしょうね

前者はまさに

強者

何回1年生の

担当教官やっているんだろう

という感じ

新入生には

こういった

「この教官でやめました」

「これで私は人生挫折しました」

みたいな

といったケースも

なきにしもあらずか

うちらは

松竹梅の

超、松コースか

ありがたやありがたや

おかげさま

Eクラスで
残り物にも福はある
さすがにEクラス

おいおい
吉本芸人の影響か

と

情報を分析している間に
シラバスはどんどん
すすむ

もちろん
どんぐりのまる写し
というか

どんぐりの情報網
(M I D)
やるなM I D

計算つくされた感じの
シラバス
完璧だ

こうして
どんどんマークシートが
埋まっていく

これでいやけを
さして

やめる者もいるんだろうな

マークシートには
未来はない
つか

カーペットに寝ころび
寝入るもの
天を仰ぐ者

関係ない話を
えんえんと
話す女子

なんでもあり
無法地帯

しかしながら
16時までには
学生課に出さないと
いけないのだが

まあこちらは
楽勝でしょう

超、松コース（後書き）

なし

グローバル時代(前書き)

なし

グローバル時代

まだまだ

自由空間

カーペット

どこかの

コミケか

ネットカフェか

さあさあ

最後は

膝突き詰めて

外国語の選択だ

みんなで相談タイム

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語
などなど

複数選択。

2カ国語とらないといけない

おいおい

日本語でも

怪しいのに

2カ国語とは

まさに

グローバル時代

誰かさんの受け売り

ここだけは
みんなで話し合って
決める

まず英語
全員一致。

そして

オハラに敬意を
表して

フランス語に決める
オハラ以外はみんな
決めた

オハラも
みんなの話を聞いて
理解

英語は

英語A、英語B
リーディングとある
なんのことだろう

どんぐり

ぼそりと
「教科書を読むらしい」

おいおい

大学まで来て
高校の延長か
がっかり

というか

大学英語のイメージもないが

ちなみに

二年は

英語A2 英語B2

なんだよなんだよ

安易な

そして

また座学か

シラバスには

表現演習とある

外国人教授か

どんぐり

教授じゃないが

外国人指導助手が

つくらしい

英語はほぼ

みんなとるらしく

定番だが

フランス語は

1年次から

駅前大学のような形で

少人数を目指すらしい

希望数によるそうだが

っていうか

オハラにフランス語

習った方がいいんじゃないか？

素朴な疑問を

話す

オハラ

一言

「ちゃんと

習いましょう」

続けて一言

「私も初心者の

つもりで臨みます」

身が引き締まる

大学教育が

始まるのだ

こうして

倫理学、法律学、法律概論、

経済学、地理学、史学、哲学、

環境、情報科学、書道、

芸術、美術史概論、自然科学、

英語、フランス語、体育

などおおむね

必修が決まった

グローバル時代（後書き）

なし

ドーハの悲劇（前書き）

なし

ドーハの悲劇

なんやかんやで
一番

困っていたシラバスは
あっけなく
終了した

1年次で
ほぼ

必修をおさえていたので
優等生的に

赤丸急上昇的に
OKだ
なんのこちゃい

どんぐり曰く
2年生からのゼミ

特に3年次は
ゼミに集中でき
4年次は

就職活動に専念できるらしい

あんな
短時間で

自分の大学時代の
未来が決まるとは・・・
おどろき桃の木

山椒の木だ

まわりの

自由空間の皆さん

やはり

必修の選択で

まだまだまだ

悩んでいるようだ

天を仰いでいるものも
いる

おいおいサッカーのゴール後か
ドーハの悲劇か

そりゃそうだ

こんだけ厚いシラバスで

どれとつて

いいのかわけがわかんなく
なるだろう

まあまあ素晴らしいのは

マークシートで

単位修得が

ピピピと出て

単位もれがあつたら
後で

泣く子も黙る学生課が
親身にアドバイスするらしい

そういう意味では
いいけど

呼び出しも怖いかな・・・

さてさて

16時を前に

我らは終了した

予饞会

もとい

キャンプファイアーは

お笑い芸人志望のめんめんが
頑張ってくれるそうなので
安心だ

それに

生き甲斐を感じる

人もいる

学級委員

じゃなかった

学級幹事が

夕食後 19時

体育館酒豪

・・・

つば八かい

体育館集合とのこと

ドーハの悲劇（後書き）

なし

夕刻（前書き）

なし

夕刻

む

んんんん

なぜ体育館なのだ

外で盛大に

キャンプファイアーなのは

出し物での

音響準備の関係

それから

火の後始末で

室内で

簡易キャンプファイアー

らしい

どんぐり曰く

大きな木の枝に

ろうそくをともす

らしい

なんだかよくわからんが

まあいつか

部屋に戻る

部屋中央の窓から

深い森と

山が見える

あいかわらず

大きな単山だ
あの頂上は
景色がいいのだろうな

ぼんやりとたたずみ
考える・・・

部屋の電気をつけていないので
よけい

夕闇を感じる
この薄暗さが好きだなあ

しばらく
その景色にみとれていると

どんぐりが
遅れてはいつてきた
手には缶コーヒーを持っている

暗がりの中
ポイツと投げる
コントロールも
ばっちりだ
温かい

どんぐりもしばらく
夕闇を見る
長いながらも
あつという間の
3日間であった
なんだかこれで

もう大学生活が
終わりのような感じである

夕刻（後書き）

なし

ノスタルジック(前書き)

なし

ノスタルジック

どんぐりが

情報、情報と言って

今日のファイヤーについて

話す

文学部のみで

教育学部は、第二体育館で

行うそうだ

(いくつ体育館あるんけ)

毎年

なかなか趣向が凝らされたものらしい

今後の文化祭などの

イニシアチブをとる

仕切りや家業の出現だそうだ

まあ

一般学生には

大学入学しての

発散なんだろうね

合宿の終わりとね

どんぐり

ひとしきり

話して黙る

夕暮れがつつむ

山の端に

夕日が沈んでいく

そうだよな

都会では

こんな風景

見れないよな

なんだか

ノスタルジックな感じ

夕日が沈むのを

ながめながら

突然

どんぐりが話し出す

どんぐりは

親の反対を

押し切って

今の大学を受験したこと

ノスタルジック(後書き)

なし

マスメディア（前書き）

なし

マスメディア

どんぐりの

父親は

先ほどの

文科じゃないけど

キャリア官僚らしい

野暮なので

どこかは

聞かない

両親は

ぜひ

どんぐりにも

T大にすすんでほしかったらしい

学力的にも

もちろん

どんぐりは

その実力は

十分兼ね備えていたそうだ

そりゃそうだ

聞けば

家庭教師に

進学塾

そうとう小さい頃から

勉強してきたらしい

私とは大違い

小、中も

私ですら聞いたことのある

名門私立

高校は別なところらしいが

しかし

どんぐりは

いとこのおじさんの影響。

おじさんは

一匹オオカミのライターらしい

自分にはないものを持っている

おじさん

やはり人間

自分にはないものを欲しくなるものか

マスメディアで

生きてみたい

そう考えたそうだが

親戚のつまみもの

おじさんは

うちの大学らしい

ただなんやかんや
いっても

報道、テレビ、出版関係には
うちは

大きく力があるらしい

それは

今の4年生が

連休明けに

証明してくれるだろう

いろいろな事を乗り越えて

どنگりは

今

ここにいる

これからは

自由なのか

私はどうなのか

そんなことを考えながら

暮れゆく

夕日を見ていた

山の端に

夕日が

消えた

しーんとする

暗闇がつつむ

突然

パツと電氣がついた

「さあメシでもいこか」

どんぐりが

明るく言う

マスメディア（後書き）

なし

NHK(前書き)

なし

NHK

こんな明るい

前向きな

ポジティブな

どنگりは

初めてだ

素晴らしい

その前向きな

明るい声に

少し

感動

ウイーン少年合唱団か

よかったね

本当に

パチパチ

パチンコには行きません

しかしながら

私みたいな

凡人が

感じない

相当つらい事が

あったのだらう

良家の子息

・・・

天皇家の事も

週刊誌で

簡単に

話題にされている

昨今

昔は

そんなに

なかったのに

世も末

日本人のモラルはないのか

年寄りの

冷や水と

お許してください

司馬遼太郎を見て

シリーズ

ぜひ

とはいえ

ご覧あれ

この時間は

終わったか

NHK

日本人の氣概を
感じます

自分でも

留学で

よくわかります

余談でした

さてさて

パート2

過去を

他人に話すのは

つらいこと

本当だ

自分を乗り越えたのか

頑張ったどんぐり

.....

その

30分後

またまた

タワー

よくやるよ

食欲は別か

執事にしてもらって
いるのか

な・ぜ・か

私に

またまた

コーヒーサービス

なんでサービスしてくれるの

本人は

いつもしてもらうので

してみたい

らしい

そして・・・

どんぐりに

いれてもらうと

なぜか

おいしい

作法があるのか

プロフェッショナル

NHKの番組みたいだ

(商社マンは感動した)

えらい

そんなに良家の

坊ちゃんなのに

入れ方がわかると

してみたいのか

幼児教育の分野か!!!!!!

今更ながら

怒濤のように

3日間が思い出される

ありがとう

どんぐり

いろいろ

してもらって

ほんとうに

あなたがいなかったら

私はどうなっていたか

いきなり

というか

もちろん座席の同じ

いつもの場所

はっちゃき

オハラモ

涙ぐむ

なんだよなんだよ

はっちゃき

泣きすぎ

江戸っ子だね

はちゃきに

圧倒されながらも

言わなくてはいけない台詞
改めて

自分で言うのもなんだが

ありがとう

いや

ありがとうございます

なんだか

うれしい言葉です

今まで人に感謝していなかった
人生だ

お茶も

流儀があるんだね

おいしい

おいしい

お茶は

人を幸せにする

ありがとうだね

どんぐり

今までの自分が

馬鹿らしい

何をへつらったのか

何を自分がないのか

くだらない自分
できない自分
馬鹿だね

どんぐりより
よっぽど
自由なのに・・・

気がつくと
はっちゃきもつと
泣いている
オハラがもつともつと泣いている

馬鹿なんだね

アホなんだね

自分の限界が見えた
自分

もつと世界をみて
やろうとする人

違うね

どんぐりは
すじい

やっぱり

それが教育の違いか

格差を感じる反面

ありがたい自分も
いる

静かに頭を下げる

どんぐり。

ありがとう。

いやありがとうございます。

心の中で言う

本当に

清々しい

神々しい

そんな

気持ちです

さあ

ということだ

キャンプファイアー

行ってみよう

テンションが高い

無理に高めたか

NHK(後書き)

なし

パリコレ(前書き)

なし

パリコレ

真っ暗な部屋

レディースアンドジェントルマン。

いよいよ

W大学の一番を決める

メインイベントが

やってきました

静かなイントロ

後ろでは

パイレーツオブカリビ안의音楽

ジャックスパロー

と叫びたいところで

声が

本日の進行は――

司会の野太い男声が叫ぶ

もーんた――

み――の――

会場全体どよめく

すげえええええ

なんたって

200名近く

さすがW
まさか
まさかの

すげええええええ

なんで

白い煙

さ^^^すーーーが

出てきたのは

そっくり万

少し動揺

しかしながら想定内

顔は似てない

しかしがなら

落ち着いて

まさに想定内

の

偽物

というか

学生

着実な

声で
進行をすすめる

気がつくと

中央に

ろうそくの炎が

ギャップ激しすぎ・・・

期待した

私**が**ばかだった

それにしても

というか

レベルが高い

大丈夫なのか

1 | E

不安がよぎる

マイケルジャクソンの曲が

POPの巨人

曲が流れ

そうかと

思うと

ちゃらら

らったらー————

いきなりの

警戒音

なんだか

野球のイントロかと思いきや

ゴジラのテーマ

チャララ

チャララ

ちやりやああああ

ゴジラ鳴き声

なんだなんだ

そっくりさん

登場

おいおい

お笑いものまね歌合戦の
ていちょう

まっついゴジラ

似てるようで似ていない

さすがに

音響か

続いて

もんたみの

つーーぎーーー

サントファミーの
曲

イントロで
流れる

バックの白い壁に
エッフェル塔が
凝ってる名あああああ

おおおおおお
フランス
フレンチ
ワイン
ぼんじよるのーーー

おまたせしましたあああ

ただいまあ
より
2011
春

Wコレクションを
始めます

と
同時に
花火
おいおい
外かい
誰もいないよ

すげええええええええええ

パリコレ(後書き)

なし

やったね80話 パイレイツオブカリビアン(前書き)

なし

やったね80話 パイレーツオブカリビアン

19時

時間だ

体育館は

真っ暗

静かに

パイレーツオブカリビアンの音楽

体育館正面の壁に

ジャック スパロウ

こと

ジョニーデップの

スマイルが

映し出される

音楽がどんどん

盛り上がっていく

デップが消えた

そして

レディースアンドジェントルマン。

いよいよ

W大学の王者を決める

イベントが今年も

やってきました

どのクラスが

栄えある

優勝を手にするのか

まさに楽しみであります

高らかなイントロ

そして

本日の進行は――――

みんなの注目を

集めるべく

一瞬ためる

そして

司会の野太い男声が叫ぶ

も――んた――

み――の――

会場全体どよめく

すげえええええ

なんだってええ

200名近く

やったね80話 パイレイツオブカリビアン(後書き)

なし

すいません78 / 79話誤配信です(前書き)

なし

すいません78 / 79話誤配信です

体育館入り口から

白い煙

さ^^^すーーが

まさか

まさかの

すげえええええ

出てきたのは

そつくり万

もんたみの

皆、少し動揺

かなりがっかり

しかしながら想定内

私は

顔は似てない

声だけ

み子さん

しかしながら

もんたみの

落ち着いて

想定内

の

偽物

というか

大きく

学生に向けて

片手をあげ

ブーイングに答える

そして着実な

声で

進行をすすめる

気がつくと

中央に

ろうそくの炎が

いつともされたのか

あるのかないのか

わからない

音楽との

ギャップが激しすぎ・・・

期待した

私がかだつた

それにしても

こんなそんなで

大丈夫なのか

1 | E

不安がよぎる

すいません78 / 79話誤配信です(後書き)

なし

今度こそそのパリコレ(前書き)

なし

今度こそそのパリコレ

配信まちがいをして
ご迷惑をおかけします
すいませんでした
81話の続きです

続いて
マイケルジャクソンの曲が
POPの巨人として
紹介され
曲が流れる

と
思うと

ちゃらら
らったらー

いきなりの電子音

なんだ
野球のイントロ

かと思いきや

ゴジラのテーマ
ちゃらら
ちゃらら

ちゃりやああああ
ゴジラ鳴き声

誰かが出てくる

なんだなんだ
またまた
そっくりさん
登場か

おいおい
お笑いものまね歌合戦

まついゴジラだあああ

特にかっこうが似ているだけで
しゃべらない

おいおい
これだけか
似てるようで似ていない
みんな静かにひく

音響だのみも
つらいところ

続いて もんたみの

つーーぎーーー
いってみよう

ちよつとドリフ風
ふる

サントワマミーの
曲が
イントロで
流れる

バックの白い壁に
エッフェル塔が
映し出される
凝ってるな

おおおおおお
フランス
フレンチ
ワイン
ぼんじよるのー
絶叫系もんださん
おまたせしましたあああ

ただいまより
2011春
Wコレクションを
始めます

おいおい
お笑いものまね歌合戦では……

と

同時に

簡易花火が

ステージの左右から

おいおい

大丈夫か

消防法に

ひっかからないか

アップテンポの曲とともに

中央ステージの

幕が開いた

おおお

こんな学生いたのか

まさに

モデル

なかなかやる

衣装も私服か

すげえなああ

今までが今まで

だったので

なんとか

群衆一息ついて

見とれる

今度こそそのパリコレ（後書き）

なし

浴衣（前書き）

なし

浴衣

もちろん

そんなに

目立った長身や

すごい美人は

いないが

みんな

クラスのために

頑張っている様子が

すぐく伝わる

素人っぽいところが

いいのだろう

衣装で

工夫しているのは

ふわふわの

帯のひものようなもの

頭に巻いたり

腰に巻いたりして

アクセントをつけている

なんだろうね

あれは

はちやき

「あれは

浴衣のひもだぜ」

さすが

はっちゃき

よくわかるよな

男の俺らは全くわからん

ああそういえば

あれは浴衣のひも

そうだ

そうだ

お祭りでしたたね

じょっしーー

いやはや

もしかして

持参？

計画的犯行か

エースをねらえ

もとい

優勝を狙っているのか

男子が少ない分

女子のパワーがすごい

浴衣（後書き）

なし

ミスター（前書き）

なし

ミスター

私の安易な発想
キャンプファイヤー
だから裸で
マサイ族

引くだろうね
どんびきでしょう

勘違い
アフリカの踊り
上半身裸で
ファイアーの周りを
まわる
木の枝などを
打ち鳴らす

怪しい怪しすぎる
女子が多い分
危険なギャンブル

というか

誰がこれを審査しているのだ

・・・

見とれているうちに
考え事をしているうちに
パリコレクシオン終了

もんた
みの

つづいてー

いよいよ

うちらかあああ

このいい雰囲気の
後だと

こちらも

ギャンブルか

やけに伸びる

声

みのさん

「韓流いつてみよう」

引っ込みはなぜか

きんちゃん

おいおい

きんちゃん走りは

やめよう

キャラがわからなくなる

そして

いきなり

大音量で迫る音楽

ミスターだ

ステージ上をまぶしい光が
交錯する

ミスター(後書き)

なし

所ジョージ(前書き)

なし

所ジョージ

あれ

5人のはずだが
踊りたい人多数なのか
10人くらいいる
まあ人数が多い方が
派手だけどね

しかしながら
すごい

一系乱れぬ踊り
K朝鮮も真つ青
上手だわあ
なぜか
こっち系

後ろを向いて
おしりを振って
黒いひも

踊り終わった

達成感

煙がでる

すげええええ

「凝ってますねええ」
もんたさんの

切り込み

若干 所ジョージ

私なんか

?さま

までですよ

み子さん

後ろに向いて

マフラーとめがねで

前を向く

みんなの方で笑顔

あによはせよおおお

向いたと同時に

冬ソナの曲

ややうけ

まあ登場の時よりはよい

所ジョージ(後書き)

なし

紅白おとり 和田アキ子(前書き)

なし

紅白おとり 和田アキ子

さあ

いよいよラスト

というか

とりだ

おとりだ

紅白なら

和田アキ子

超大物

いやな予感がするが

もんださん

今度は何も言わない

場内暗くなる

無言でMCなし

低いサウンド

どこかで

聞いた音楽

いーのーきー

ぼんばあいえっ

いのきー

ぼんばあいえ

燃える闘魂

注入かーーーー

入り口付近に

ライトが

浴びる

もんたさんが叫ぶ

「赤コーナー1600ポンド、

よしもと コーギョー

所属 予定」

「ボタндаウン」

「得意技 どつきまんぞい」

すげえ もんたさん

猪木のテーマに

ぴったり

紅白おとり 和田アキ子(後書き)

なし

マセキ芸能(前書き)

なし

マセキ芸能

入り口から

選手入場

パイプ椅子なんか

振り回してる

ボタンダウンか

客は

わーわー

キヤーキヤー

叫んでる

いつのまに

ファンができているんだ

桜か

誰だ誰だ

水なんか

バケツでかけてる

おいおい風邪引くよ

それで

観客わーわー言ってたのか

もしかして逃げてたのか

会場の騒ぎとは

関係なく

もんださん

マイクパフォーマンスを

続ける

「続きまして

青コーナー1400ポンド

ませき芸能社 所属予定」

「よっちゃん けんちゃん」

「得意技 ちよつとこじゃれた

地下鉄まんざい」

まんなか

とおりまーす

脱線するんやない

けーーってやつか

マセキ芸能(後書き)

なし

闘魂注入（前書き）

なし

闘魂注入

こちらは

まさに例の人のぱくり

赤いタオルを巻いている

いやいや

振り回している

すぐく振り回している

凶器のように

振り回してる

2人組で入場して

片方のやつが

あたり一面に

ビンタなんかしている

まさに

勝手に

闘魂注入

客は逃げてる

逃げてる逃げてる

本気で逃げてる

ほんとに騒ぎだ

大丈夫なのか

1年E組・・・不安です

勝手に闘魂注入

しながらも
観客もとい
文学部全体の
ボルテージは
あがる
あがるあがる
あがるあがるあがる
絶好調
すごいパワーだね

みてみて
椅子上に立って
握り拳ふりあげて
すごいすごい
他にも
ガッツポーズしてる
何かに怒っているのか
たたかかれてるやつ
拍手してるやつ
ブーイングしてるやつ
ほんとにいろいろ
ききこもこも

闘魂注入（後書き）

なし

デジヤブー(前書き)

なし

デジャブー

猪木ボンバー言え
むむ

猪木ボンバーと
言え???

繰り返し流れる
猪木コール

とにもかくにも
興奮が絶好調
最高潮

なんだなんだ
ステージ上のリング
特設リングか
おや！どこかで
見た！！！！
なんだこりゃあ
思い出したぞ

デジャブー

中学時代・・・

「カーン」
ゴングが鳴った
両コーナーから
漫才開始

ボタンダウン

強烈なぼけとつつこみ

背の高い方のぼけがまわる

小柄な方は強烈な

つつこみだ

つつこみ方

「ワハハハハ」と

笑いながら叫ぶ

ものまねがうまいのか

大歓声

かなりうけてる

赤コーナー

ボタンダウン有利か

デジャブー(後書き)

なし

祝 祝 90話 東京人(前書き)

なし

祝 祝 90話 東京人

超大歓声

客層を熟知している

ボタンダウン

それに対する青コーナー

びよこびよこ

よっちゃんけんちゃん出てくる

東京風おしゃれ

関西の方には

わからない

東京の地下鉄路線

をあげて

漫才開始

路線のわからない

関西人を

完全に

敵にまわしている

東と西の対決か

東京人はわー

これは関西人には

わからないところあり

関西と関東のうどんの違いを

100字以内で述べよ
みたいな感じか

東京人はそんなにえらいのか!!!

ひねくれたコンプレックスか

東京人は、

東京人はあああああ

筆者が

東京にコンプレックスを
持っている・・・

感情的にならないように
したいが・・・

東京人は

みんな地下鉄に
スイスイ

迷わず乗れて

迷っているのは

田舎もの

迷って悪いかああああ。

わからないのはわからない。

祝 祝 90話 東京人(後書き)

なし

関西バスターズ(前書き)

なし

関西バスターズ

あと、

あの早足に

私はついていけない

そんなに忙しいのか

ゆっくり歩いて

いいじゃない。

東京スピード

けっこう早いです。

早いのが東京人の証なのか。

なんどもいうが

ゆっくりでもいいじゃない。

田舎もんって悟られても

いいじゃない。

(某NHKの歌にあったかな)

(サラリーマンNEO)

漫才そっちのけで

そんなことを

考えて頭がまわっている

間に

漫才は終わった

「カンカンカーン」
ゴングが鳴る

漫才の終了を告げる

「判定は」

どこにいたのか

いきなりレフェリーが出てきた

あの白と黒の服を着ている人。

「勝者。ボタンドウン。」

すごーーい

関西人の勝利。

芸歴に差はないと思うが

ボタンドウンの方が迫力があつたか

いやあ

判官びいきじゃないけど

関西が勝って

うれしい。

関東バスターズ。

大阪のおばちゃんは
負けないよ

関西バスターズ（後書き）

なし

若大将 加山 雄三(前書き)

なし

若大将 加山 雄三

場内やんやの

大歓声

もんた

登場

静かに曲がかかる。

おやこの曲は・・・

「さあ

みなさん

サライを歌いましょう。」

おいおい24時間テレビか!!

てゆうか

会場も

みんなも

ろうそく持つなよ。

キャンドルファイアの

周りに

輪を作るなよ。

歌うなよ。

ながされてるよおおお。

そこへ

「締めはやっぱり

この人。

くわやま ゆづぞうさん「

静かに一人の長身の
体の大きい人がでてくる

ブルーの背広
若大将

そう

「ぼくああ

死ぬまで君をはなさないよ」

「おっと、まちがったあねえ」

「シンチャン、手伝ってくれよお」

残念ながら谷村新司はきません。

サライの熱唱が

はじまる

意外にうまいぜ

くわやま ゆづぞう。

営業ネタか。

みんなも

ろうそくを

ふっている

これで

室内だったのか

合点がいった

涙をながしているものも
いる

なんか巻き込まれているよ

24時間テレビと
一緒にしているよ

ということでも
ともかくにも
会は終了した

この後は
打ち上げだそうだ

なんのこっちゃ

みんないったん
体育館を
ぞろぞろと
後にしている

会場は

クラスごとに
例のじゅうたん部屋だそうだ

なんやかんやの
この静かな
感動は何？

若大将 加山 雄三(後書き)

なし

僭越ながら(前書き)

なし

僭越ながら

じゅうたん部屋に
やってきた

もうだいたい
集まっているようだ

部屋の中央に
テーブルが
どこからか運んできたのだろう
飲み会となると
まめなやつがいるよな
そして

テーブルには
ポテト、チョコレート
などなどのお菓子
袋で山盛り
買い出し大変だったんじゃないか
ご苦労様だ

お酒もあるようだ
缶ビール350mlが
6パックずつ
ピラミッドのように積んである
きれいな積み方
芸術性を感じます

サワー系も

ある

山と積まれてる

こちらは

タワー。

スカイツリーのようだ

というか

似せているのだが

そっくり

そして

缶の緑とか、青とか

ピンクとかの色を

うまく使っている

いまはやりの

3D効果か

眼鏡はかけてないけど

かなり高度な

建築技術

いや積み技術。

みとれる

観察しながら思う

取る時どうやって取るのか

疑問も生まれる

まあいいか

芸術系の仕事だね

そっぴや

宿舎は飲酒可だったのね

まあいちお

大学の宿舎だし・

突然、みんなに
呼びかける挨拶が・

「あ、あつ、

僭越ながら

乾杯の挨拶を

不肖、私、佐藤が

行いたいと思います。」

僭越ながら（後書き）

なし

乾杯（前書き）

なし

乾杯

おいおい誰だよ。
私。

どنگり「クラス委員」

なんでも親父さんは
有名な国会議員さんらしい
もしかしてあの
髪の毛に特徴のある
大物政治家か???
秀囲氣が確かに似てる
なんというかすごい大学だね

委員の挨拶は続く
なんだか大人の
アジテーゼ

打ち上げなんだから
ぱあつといこう
そう私が
思ったとたん

「おい佐藤、はやくやろうぜ」
はっちゃきだ、、以心伝心か
まあ、はっちゃきらしいな

かんぱあああーい。

大きな割れるような盛大な声
わああああとほじけるような
歓声、続く拍手。。。
拍手が長い。

みんなも振り返るものがあるのだろう。

そして

ああ、合宿も終わりか。

一口ビールを飲む

感慨ぶかい

まだ相変わらず苦い

引っ越して飲んで以来だ

しかしながら

あの時の寂しさはない

ふとどんぐりを見る

どんぐり

もう

涙ぐんでいる

乾杯（後書き）

なし

華（前書き）

なし

華

どんぐり

あまりお酒は

飲み慣れていないのか
すこしビールを

飲んで

というか

一口か二口じゃない？
泣くなよ。。。

どうした

どうしたどうした

何を感動したんだ

どんぐり

ぼそりと言

「合宿が終わる。」

少し感極まって

「そう思って・・・」

オハラ、はっちゃきも

やってくる

はっちゃきは足をまだ

ひきずっている

よおつと

はっちゃきは

片手をあげてる

器用だね

しかしながら

顔が笑顔だ

久しぶりに笑顔を見た

明るい

天使のようだ

まわりが

ぱあっと明るくなった

やはり太陽か

華がある

華（後書き）

なし

八海山（前書き）

なし

八海山

はっちゃきは
飲み慣れているのか
日本酒だ
おいおいおやじかい
まじつつこみしそうだ
さっきの
ざ、漫才の影響か。。
はっちゃきは
花火の現場でよく
打ち上げで飲むそうだ

八海山

しぶい
はっちゃきは
くいつと飲む
白い紙コップが
まぶしい
紙コップが重みを持って
見える

飲みっぷりが
様になるとはこういうことを
いうのだらう
はっちゃきは黙って私に紙コップ

日本酒は
未知の領域です。

.....

私が飲めないと思ったか
無理強いせず
かつてにはっちゃき
出したコップをもどして
飲んでいる

私が飲みたそうな顔を
していたそうだ
いえいえ
みとれていたんです

八海山（後書き）

なし

ワインボトル(前書き)

なし

ワインボトル

オハラは

ワイン飲んでる

飲んでる姿にびっくり

こちらも

様になるねえ

グラスの持ち方が

素敵です

「ワインは社交で

普通です」

社交って何

どんぐり

「パーティ」

泣きながら言っなよ

私は飲んだことないけど

おいしいのか

何、飲んでるの？

どんぐり

泣いてるわりには

素早く

ボトルを持ってくる

ラベルを見してみる

ハートのマークが素敵だね
中にお城が描いてある
洒落たワインがあるんだね
はじめてみた

オハラは

なんかのお祝いで

飲んだことが

あるらしい

家でも普通に

飲むことがあったそうだ

ワインボトル（後書き）

なし

天使の足(前書き)

なし

天使の足

どんぐり

7千円から1万円か

ぼそつと言っ

えっつ。

ワイン1本

。。。。

誰よ

こんなの持ってきたの。

というかどんぐり

よく知ってるわ。

なかなかメジャーらしい

さらに続けて

どんぐり

ワインのグラスを

私にかざして

天使の足

ワインをグラスで

軽く振った時

できる

ワインの跡

それが

おいしいワインらしい
ホントにうんちく
よく知ってる

貧乏くさいが

試しに

一口もらう

オハラグラスを
飲ませてもらう

どうぞ

高いから
おいしいのか
と

思ったが
しぶい
コルクの匂いもする

どنگりに
言わせれば
それがおいしいらしい

すごい渋い顔をしているので
オハラ
上品に笑う

はっちゃき
ドンと

私の背中をたたいて

大笑い

笑いすぎだよ

つぼにはまったか

しかしながら

はっちゃき、顔に全く

酔いがでていないが

元氣になっていったる

まあ元氣になるのは

よいことか

ワインいっぱい

漫才か

天使の足(後書き)

なし

非常口（前書き）

なし

非常口

だんだん会場が
ざわついてきた

ふと見ると

非常口か

扉があつて

外に出れるようだ

そちらに向かい
ぎぎつと押して
外にでる

すうつと冷たい

夜氣にあたる

高原なので

さすがに

夜は肌寒い

さっきのワインが効いたか
酔ったようだ

外気は寒いが

酔いはさめそうだ

見れば

山は静かだ

だが存在感を持っている

暗闇の中

そこに

山を感じる

深い黒

夜目が慣れてきたのか

まわりの木立も見える

遠くでけもの声がする

森は寝静まっている

硝子の向こうは

にぎやか

少し硝子も曇ってきている

4月なのに

誰かがこちらに

やってくる

非常口（後書き）

なし

祝 祝 祝 100話 メガホン(前書き)

なし

祝 祝 祝 100話 メガホン

シルエツトが
こちらに
来る

ああオハラか

ワイン大丈夫ですか

勝手に飲んだのに
オハラは親切だ

しばし

二人で黙る

あんまし

こういうシチュエーションは
経験がない

なんだか困る

どうしたもんか

オハラ

突然

私に

「私、元氣になります」
にっこりと

こちらを向いて言う

笑顔が

まぶしい

つい目線をそらす

でもそれを聞いて思った

そうだ

新しい生活だ。。。

改めて

入学前から

なにを自分はうじうじと

やっていたのだろう

恥ずかしい

穴があつたらはいりたい

そんな氣持ち。

なんと言つていいか

わからないけど

無理矢理

「俺も元氣になる」

手でメガホンを作つて

叫ぶ

あんまし突然

大きな声を出したので

オハラびっくり。

でも笑顔で

笑う

大きなこだまで
木から

鳥が羽ばたいて
いった

こうして

合宿は幕を閉じた

祝 祝 祝 100話 メガホン(後書き)

なし

新章突入 スカイブルー（前書き）

なし

新章突入 スカイブルー

きれいに整えられた

街路樹の

木々の新緑が

本当にまぶしい

おまけに

道路沿いに

きれいに花も植えられている

とてもよく

整備されていて

たくさん

真新しい建物が並んでいる

そして

ゴミ一つ落ちていない

すごい街だ

見上げれば

空。

真っ青だ。

高い。

首がいたくなるくらい

見上げる。

どこまでも続いているようだ

その高い空を

飛行機がじゃんじゃん

急上昇している

少し置いて

音が追う

すごい

15分に一度か

それくらいの

間隔で

どンドン飛び立っている

日本のはるか・・・

いや世界の

あなたに・・・

どンドン飛び立っている。

そんなに飛んで大丈夫か

首が痛くなりながら

見つめる

飛ぶとこ

そんなに見たことないもんな

このままだどこかに

飛んでいくのか・・・

旅だっっていくのか

新章突入 スカイブルー（後書き）

なし

おにぎりあたためますか(前書き)

なし

おにぎりあたためますか

座っているところから

もう一度

改めて

まわりを見る

何度見ても

やっぱりすごい人だ

本当に

なんという人だ

人に酔う

田舎ものにはつらい

人と会うのが

話をするのが

1日に数人の世界です

下手したら

いやいやそうでなくても

しなくても

学校と家の往復です。

知っているのはコンビニの

ねーちゃんくらいです。

「おにぎり

あたためますか」

「いえ、いいです」

ねーちゃん

黙っておつりを渡す

手は触れないように

「レシートいりません」

(エコを意識してか)

別のことを意識してか
ていうか

ゴミを受け取らないだけ何じゃ???

それにしても

うんざりするくらいの人

よくまあこれだけの人が

いるもんだ

来るもんだ

皆、楽しそうにしている

本当に笑顔

うれしそう

楽しそう

どんだん人が集まってくる

カップル、家族連れ

お年寄りも孫と一緒に

本当に幸せムード

おにぎりあたためますか（後書き）

なし

警戒 エヴァンゲリオン発進(前書き)

なし

警戒 エヴァンゲリオン発進

なぜだろう。

なぜ。

なぜなぜ。

私は

ここに

視界の中央に

テレビで

見覚えの

あの

お城が建っている

軽快に

メインテーマが

ながれてくる

私にとっては警戒だ

警戒ランプ

エヴァンゲリオン

あの主人公

王様か？

キャラクターが

何かに乗って

こちらに

向かってくる

沿道で

歓声があがる

みんな必死で手をふる

本当に必死

それに

命をかけている感じすらする

写真をとる

デジカメ

携帯

ハンディビデオ

すごい

すごいすごい氣迫

お父さん張り切りすぎて

前につんのめって倒れそう

頑張っ

思わず応援する

そう

ここは

夢の国

デイズニールランド

そして今日は

ゴールデンウィーク2日目

ていうかあ

はっちゃき!!!!!!!!!!

連休2日目なら人はいないって

うそつくなああああ

!!!!!!!!!!!!!!!!!!

おいおいすすぎだよ

.....

警戒 エヴァンゲリオン発進（後書き）

なし

羽田空港（前書き）

なし

羽田空港

隣のはちやき

しらつと

例年よりは居ないよ

おいおい

十分です

一生分の人に会った感じ

そして思うに

私たちは、さつきから

何かのアトラクションに

並んでいるが

進まない

軽く1時間は

いるじゃないか

いや

飛行機が5回くらい

飛んでいったから

まちがいない

確信する

絶対いる

私はもう一生分の飛行機の

離陸は見たと思う。

そう

羽田空港は幕張の沖

振り返れば

今日は

朝 7時

幕張駅に着いた

K県からは遠い

反対側だ

どんぐりは

車で送るよと

言っていたが

電車で

こんなにかかるとは

とほほです

田舎者の無知

羽田空港（後書き）

なし

京葉線（前書き）

なし

京葉線

どんぐりの車は
かえって

高速が渋滞するかと思って
電車で行ってざまあみると
言おうと思ったが
なんのことはない
送ってもらえばよかった
後悔先にたたず

唯一よかったこと
家を早くでてよかった

というか
昨夜から
ずつつつとネットゲームを
していて
気がつけば朝で
そのままです

寝なくてよかった

着いたことで
いちどきに疲れがどつと出る

京葉線

東京駅から15分
知っていたけど
電車もすごい人

ラッシュだ
なんで連休で
ラッシュなの

!!!!!!!!!!!!

東京までは
がらがらなのに

幕張について

私は

本当に今日は終わった
という感じであった

それにしても

朝7時なのに

すごい人

人の波

駅前です

繰り返すが今日は連休2日目
そして朝は7時です

これは迷子だ

見つけられない

見つからなかったといって

帰ろう

幕張までは来たのだから

そう思って

改札に向かおうとした時。

京葉線（後書き）

なし

幕張駅(前書き)

なし

幕張駅

突然

携帯が鳴る

大音量

自分で自分の携帯にびっくり
なんでこの着信音

誰だ

ゴッドファーザーにしたの
!!!!!!!!!!!!!!

どんぐりか

私の着信がほとんどないのを
知って!!!!!!!!!!!!

計画的犯行

はっちゃきの着信

すぐに

人混みから
こちらに

駆け寄る氣配を
感じた

幕張駅の柱の向こうから
手を振っている

ゴッドファーザーが

聞こえたか

いい耳してるぜ

ていうか

早いぜ見つけるの

私の

夢は消えた

.....

なぜ私が

ここまで苦勞して

ここに来たのか

いや

来なければならなかったか

.....

幕張駅（後書き）

なし

まちぶせ(前書き)

なし

まちぶせ

振り返れば

桜も散つて

葉桜がまぶしい

4月下旬

1週間前・・・

ざわめく

大学構内、

学食前で

ばったり

はっちゃきに会った

私は

いよいよ

食べるものもなく

学生証カードなら

銀行引き落とし

学食で

カード払いで

食いだめしよう

そう思つての

ひさしぶりの

構内であつた

しかし出会うのは

すごい確立

まちぶせとしか

思えない

おかしいかな

あの合宿以来であった

確か

ワインを飲んだっけ

気がつけば

酔っぱらって

次の日

どんぐりに助けてもらって

バスで宿舎を後にしたなあ

遠い記憶がよみがえる

半年くらい前の

気がする……

もちろんオハラも

はっちゃきの

後ろにいた

まちぶせ(後書き)

なし

同情するなら金をくれ(前書き)

なし

同情するなら金をくれ

久しぶりに見る二人

なんだか二人とも

随分あか抜けた感じ

そうか

季節は初夏になるのか

ござっぱりして

はっちゃきは

もうTシャツか

ピンクが似合うね

というか

まぶしいよ

俺が着たら

林家パー子だよ

若いね

はっちゃき

あんたは年寄りか

オハラも

相変わらずの

長身で

モデルのようです

モデルだったのか？

記憶がごちゃごちゃ。

デパート

古いね

銀座とかの

ブランド有名店から

出てきた感じ

ブランド音痴の私でも

わかる

た・か・そ・う

同情するなら金をくれ

言葉が浮かぶ

が

黙って飲み込む

同情するなら金をくれ(後書き)

なし

連行(前書き)

なし

連行

私はみすぼらしい
格好で

ほとんど浮浪者
着たきりすずめ

何日着つばなしだ

オハラに会って

自分で自分に

匂うかもと

思ったりした

まさに

うらしま太郎

ここは竜宮城か

その後

学食に連れていかれ

（人が見たら

連行されたとも言っ

そして

すぐに

どんぐりも

はっちゃきに呼び出され

どんぐりも

私の前に立っていた

どんぐりは

運動部に入ったのか

ジャージを着ている
相変わらず

かっこいい

とてもデブには
思えない

とても

ジャージが似合う

今のジャージは

誰でも

かっこよく見えるのか
それは思えない

連行（後書き）

なし

ご飯大盛り(前書き)

なし

ご飯大盛り

ひさしぶりのどんぐり

聞けば昼休みなので

日課のジョギング

新緑の中

構内を走っていたそうだ

額に汗がにじんでいる

あなたは

すごいよ

自分の情けなさが

身にしみる

こうして

人は世間からはずれていくのだろう

学食は比較的すいていた

久しぶりに見た

健康的な

良心的な

栄養価のある

食べ物

私は

どんだん

取る

ご飯をおばちゃん

大盛りにしてくれた

サービスか

金を取るのか

よくわからん

こっちが

食べてない身なりだったからか

同情するなら金をくれ

どうせ

カードだ

ご飯大盛り(後書き)

なし

その目です。現金4680円(前書き)

なし

そろ目です。 現金4680円

まあまあ
並んだおかず

めいっばい
トレイに並べたおかず
定食、さらに持って帰ろうと
思ってたパン
ちやりん

全部で
4680円

バイトレジ係りも
やや苦笑

本当に
苦笑い

こんなを買うのも
いないだろ
こちらも

びっくり日本新記録

カードを渡そうとしたら
横から
スツと手が

なんだ
どんぐりが
切れそうな
ピン札を一枚

レジに手渡す

おおお

久しぶりにみた

新渡戸さん

だったか

お札もみていないので
忘れた

夢じゃなかった

なんと

どنگり

ゼーゼーんぶ

払ってくれた

キャッシュで

現金で

4680円。。。。

その目です。現金4680円(後書き)

なし

密会（前書き）

なし

密会

持つべきものは友だちだ
金のある人は違う

ニコツと笑って
どんぐり

小銭を全部

私に握らす

オオマイゴツド

ゴツドファーザー デス。。

びっくりして

急に外人に。

ていうかカタカナ外人か

それにしても

320円で

しばらく生きられる。

神だ、仏だ

本当に素晴らしい。

私が

夢中で

がつつ食べている間

なぜか

3人ぼそぼそと

密会。

長い密会の後、

なぜか

はっっちゃきが

5千円をどんぐりにわたす。
なんだ援助交際か。

そして

次の一言

5月3日

幕張駅午前7時

絶対来い。

密会（後書き）

なし

不良債権 刑事さん私がやりました(前書き)

なし

不良債権 刑事さん私がやりました

ここまで

きたら5千円はちやら。

なんだなんだ

いつの間にか

善良な市民の

おごりが

債権化され

悪徳

まさに悪徳

はっちゃき銀行に

不良債権として

渡っていた

オオマイゴッド

さらに

来ないと

今後、大学講義の

代弁はしない。

鬼のような

はっちゃきの

形相

すい

怖い顔だ
剣道2段

空手なら
投げ飛ばされそうな
氣配。。。。

でも

その裏には
優しさがあったのだろう

怒ることで

私を大学に
引き戻そうとしていたのか

というか

講義の代弁を
どنگり共々
今まで

してくれていたようだ

私に選択権はなかった
というか

心の中では

頼んでもいないのに
ご苦労なこった

人間は楽な方に

楽な方に流されていくものです

黙っていたが

心の中でうそぶいた

しかし

どんぐり

「もう大学辞めた人も

何人かいるらしいよ」

「故郷のおふくろさん

どう思うかな。」

「これ食べて楽になんな」

思わず

刑事さん

私がやりました。。。

と

言いそうになったのは

BSの見過ぎか

健さんは続いています。

不良債権 刑事さん私がやりました(後書き)

なし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3881y/>

風のグラスゴー

2011年12月11日04時22分発行